



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 179 Oct. 1. 2024

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

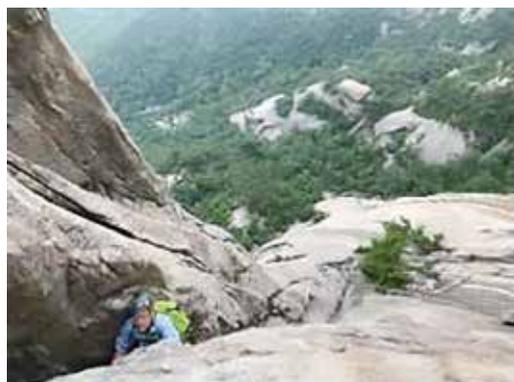
郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント



韓国 仁寿峰にてクライミング 詳細は本文P2参照

目次

○韓国遠征報告	高橋玲司	2	○名作の舞台を訪ねて(2)	村中征也	24
○インド・ヒマラヤ登山隊2024	星 一男	6	○東海支部蔵書からの一冊40	石田文男	25
○上高地ー楽しい歴史話(3)	和田豊司	7	○登山用具あれこれ⑬	千葉泰丈	27
○トピックス		11	○委員会報告 ボランティア/ 猿投の森づくりの会		28
○第8期登山学校スタート	服田康宏	12	○支部友コーナー	田中 進	30
○山行委員会だより	稲葉真英	14	○会務報告	今津英一朗	31
○亀の会 富士山登頂報告	加藤守彦	15	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗	34
○平出和也君のこと	尾上 昇	19	○INFORMATION	星 一男	35
○同好会コーナー スケッチ		21	○編集後記		
○東南アジア・インド紀行Ⅱ	田中 進	22			

クライミング、ハイキング韓国遠征報告

支部長 高橋 玲司

はじめに

本計画実施の契機は、日本山岳会・中国登山協会・韓国山岳会の共催による「日中韓学生交流登山」であった。この交流事業は、毎年3ヶ国の山で順番に開催されていたのだが、今は中止となっている。

2010年は、日本が担当でその年5月、JACの山研をベースにした槍ヶ岳の登山であった。東海支部から田辺 治氏(2010年ダウラギリで遭難死)と私で学生数人を引率している。

韓国側の引率責任者は、韓国山岳会のリ・ヨンジュン氏であった。リ氏からは、韓国隊の厳冬期のガウリサンカール登山の話聞き、田辺氏と共に感銘した事を思い出す。

また、2011年の韓国大屯山で実施された3国の学生交流の場でもリ氏に大変お世話になっている。リ氏とは、その後もFacebookを通じて双方の活動を確認しあう親しい関係が続いている。

東海支部では、“もっと積極的なロープクライミングを”を目的として私の音頭で2023年「アルパインクラブ」が設立されている。現在クラブには35名を越える支部員が所属していて岩登り、アイスクライミングなど結構ハードなクライミングを実施している。2023年には、広島三倉山で、その他北岳そしてカナダにも足跡を残してきている。

韓国山岳会のリ氏との関係から、是非韓国でとの思いからリ氏に相談したところ快諾をいただき、今年6月の実施が決定した。今回の実施にあたってはリ氏をはじめ韓国山岳会の皆さんの暖かいご厚意とご協力の賜のお陰であり、併せて両国間の国際親善の輪が広がったことを報告したい。

日時: 2024年6月14日(金)～16日(日)

目的地: 韓国ソウル 北漢山国立公園 仁寿峰、白雲台

参加メンバー: (敬称略)

高橋 玲司 支部長、池戸 美恵、竹内 将、豊田 由香、高橋 湧太、草野 駿希、今津 英一朗

※ 留守本部: 服田 康宏 副支部長 現地へ連絡手段: LINE 通話など

経緯、目的

仁寿峰クライミング・白雲台ハイキング及び韓国山岳会との交流

韓日中合同登山隊で親交のあった韓国山岳会(CAC)から交流の申し出があり、海外登山の体験として、東海支部から7名が、クライミング、ハイキングと、韓国山岳会との交流を行った。

行程概略

14日 中部セントレア空港より韓国仁川空港、宿泊

15日 ハイキング、クライミング山行
下記報告書参照

16日 ソウル近郊観光、仁川空港より中部セントレア空港、帰還



韓国「仁寿峰(インスボン)」山行報告

山行日: 2024年6月15日(土) 天気: 曇りのち晴れ

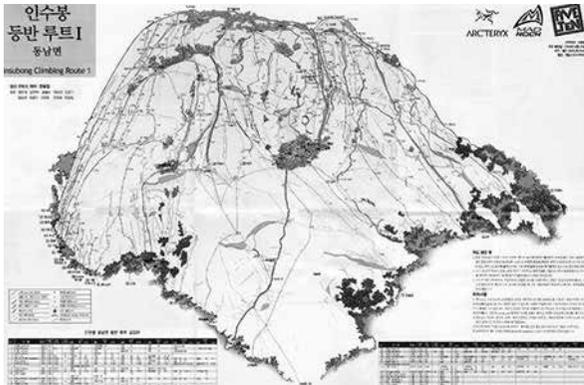
山名: 韓国 北漢山国立公園内 仁寿峰(インスボン、Insubong) 標高810m

参加者: 高橋玲司、池戸美恵、竹内将、草野駿希、高橋湧太、韓国山岳会6名 計11名

【行程】

白雲台探訪支援センター9:30 → ハル峠10:00 → 取付(下図中央線の下端)10:45 → オアシス(下図中央)12:10 → 仁寿峰ピーク15:00/15:30 → 白雲台と仁寿峰のコル 16:30

→ ハル峠 17:10 → 白雲台探訪支援センター
17:40



今回のクライミングルートは中央黒線

【クライミング概要】

インス A と呼ばれるルート（上図中 27 番、図中表にはグレード 5.8 と示されている）を主軸に 3 人、4 人、4 人の 3 パーティで登った。内容はクラックとスラブの複合。同時に行動するために一部はパーティ毎に異なったラインとなった。同図中の線で示すコルへ出ると、さらに 1 ピッチ登ってクライミングは終了となりハイキングで山頂へ。山頂をわずかに下った所から 60m 弱の懸垂下降で白雲台とのコルに立ち（これは上図の背面に位置し示せない）、同コルからはハイキングにて取付へ復帰した。なお、取付（既述）からオアシス（既述）までは大スラブと呼ばれ、これはルートに含まれない。

【感想】

韓国交流登山。インスボン。5.9。（実際には 5.6~5.8）スラブ。マルチルート。行ってみたい。見てみたい。登ってみたい。登れるか??? 大きな不安より、大きな好奇心が勝り、参加表明をした。

前日ウェザーニュースでは朝から雨予報だったが、韓国メンバー曰く「明日はそんなに天気は悪くない、雨が降ればすぐに懸垂で降りる」とのこと。雨で滑るのは嫌だが、すぐに引き返すのも嫌だな・・・とか思う。

当日は曇りで 3 パーティの組み合わせが決まり、インス A のコースを登る。スタートとゴールは皆一緒だが、3 パーティのコースは少しずつ違う。

どのパーティも韓国チームがオールリード。大スラブ 2 ピッチをから始まり、クラック。クラックがだんだん広くなり、苦戦する。さらに

手も足もない立ったスラブになり、当然滑る。ここを越えたらそろそろ終了点になってほしいな・・・と弱気になったが、まだ先があった・・・。

登り終わると広大な風景。山々の向こうに広がるビル群。目の前に白雲台。先に到着していた他の 2 パーティの笑顔。登り終えた充足感に満たされる。山頂に着いたのは 15:30。空腹であったことに気づき、遅い昼食にパンを一つ食べる。

もう少しゆっくりしたい気もするが、登山チームは既に下山しているであろうし、予定よりも大幅に遅れている。50~60m の懸垂下降（オーバーハングの空中懸垂有り）で一気に高度を下げる。



仁寿峰の山頂にて クライミングチーム

韓国チームの方たちは、いつもにこやかにで、大らかで、登攀度胸・技術がすごい。そして夜はよくしゃべり、よく食べ、よく飲む。

私たちの登ったインス A はインスボンで 2 番目に簡単なルートだそう。慣れていないせいなのかもしれないが、とても大変だった。下山後の会食で「俺は昔はそのコースは 2 時間で登ったよ」と韓国チームの存在感大の方（東海支部の〇〇先生に似てる・・・？）はにこやかに豪語する。

今回の韓国交流登山。まるで旧知の仲のように熱いおもてなしをしてくださった韓国山岳会の皆さん。細かい調整を始終してくださった今津副支部長。体力、エネルギー半端ない草野さんと湧太さん。同じパーティでいろいろ助言をしてくれた頼もしい存在、竹内さん。韓国ツアーにはなくてはならない韓国と日本の架け橋、豊田さん。そしてこのような交流登山を提案、企画、そして実現に至るまでのすべての指

揮をしていただいた高橋支部長。皆さんに心から感謝です。本当にありがとうございました。

今回韓国語は全くわからなかったが、笑顔で話しかけられたり、写真を見せてもらったり、なんとなく気持ちやイメージは伝わってきた。。

いつか韓国山岳会の方々はこちらにいらしたときは、事前に韓国語の勉強をして、よりコミュニケーションをとれるようにして、私たちが受けたようなおもてなしをしたいと思っている。 池戸 美恵

これから海外登山をしていきたいと思っていた自分にとって、この韓国の話はとてもありがたいものでした。僕は自身で海外山行を企画し実行できるようになるための手掛かりにしたくて参加しました。韓国語は挨拶や感謝の言葉しか知らず、英語もロクに扱えない身でしたが、とにかく行ってみて、困った経験も糧にしよう。

しかし、実際に韓国で過ごす時間の中で、別の世界が見えてきました。CACの皆さんとの交流は事務的な類のものだけではなく、時にパーソナルなものだったり感情的なものだったからです。一度きりの挨拶や論理的に話をつけること以外に、個人としての温かい交流があったことは思いがけないもので、韓国に行って、皆さんとご一緒できて本当に良かったと強く感じました。当初掲げた自分の思いは叶い、さらにその上もっと語学力を高めて個人的に話せるようになりたいな、ならなければならぬと思ったのです。

クライミングでは4人組（キムさん、ソニアさん、草野さん、自分）の最後尾に位置し、メンバーのビレイをすることなく純粹に登りだけに集中させてもらおうというありがたい状況でした。率直な感想は、1.自分のクライミング能力の成長が感じられて嬉しかった、そして、2.仁寿峰のもっとチャレンジなルートに登りたい、の2つです。

大スラブはズルっといかないよう気を配りながらも、細かくスタンスを拾って登ることができました。リードのキムさんはランナウトも意に介さない様子で、技術の高さと精神的強さが伺えました。会話の中で同い年と分かり、とても良い刺激となりました。

オアシスで少し雨が降りましたが、ほどなく止んで先へ。通ったラインはフィンガー～ハンドサイズのクラックに、スラブ内のスタンスを

組み合わせて登る内容で、以前の自分からすれば気持ちよく登り続けることができました。

途中、ソニアさんからはクライミング用語の韓国語を教わり、それを実践して盛り上がりました。クライミング終了点ではキムさんが「すげ〜」を気に入った様子で連呼していたのが印象的でした。とにかく、僕にとってはクライミングそのものよりCACの皆さんとの交流がメインとなった1日でした。

言葉が思ったように通じなくても、山という共通項でつながれる、楽しさを共有できる。別の国にもそうした楽しみを大切に生きている方がいる。インスピークでのセルフイーはその思い出としてこれから先の宝物です。CACの皆さんこの度はありがとうございました！

高橋 湧太

韓国 北漢山「白雲台(ペグンデ)」山行報告

山行日：2024年6月15日(土) 天気：曇りのち晴れ

山名：韓国 北漢山国立公園内 白雲台(ペグンデ) 836.5m

参加者：韓国山岳会 ビョン ギテ会長、ユ ハクチュ副会長、ユン ヨンチョル理事
今津英一郎、豊田(辛)由香 計5名

【登山ルート / 所要時間】

宿泊施設(牛耳駅 BAC センター) 9:00～(車移動)～ペグン(白雲)探訪支援センター登山口 9:40～ハル峠 10:10/10:25～白雲山荘 11:05/11:25～白雲台(ペグンデ)山頂 12:00/12:10～仁寿峰(インスポン)A地点(下記地図)12:45/13:05～B地点(下記地図)13:40/13:50～ハル峠 14:25/14:35～追慕碑 15:10/15:20～ペグン(白雲)探訪支援センター登山口 15:35～(車移動)～宿泊施設 15:45



今回の白雲台(ペグンデ)のハイキングコース

【概要】

ソウルの北側にある北漢山国立公園(76,922㎏)は、北漢山(プッカサン)地域と道峰山(トボンサン)地域とに分かれる。多様なルートがあるため体力と状況に合わせて登ることができ、頂上からはソウル市内はもちろん周辺一帯360度の景色を眺めることができる。また、「耳岩」をはじめ、鈴鹿・御在所を思わせるような奇岩も多く点在。今回は北漢山(プッカサン)のなかでも、三岳山(サムガクサン)とも呼ばれる、ソウル最高峰の「白雲台(ペグンデ/836.5m)」・クライミングが盛んな「仁寿峰(インスボン/811m)」・リッジのある万景台(マンギョンド/800m)の3座のうち、2座でクライミング班とハイキング班とに分かれて日韓交流登山が行われた。

【感想】

韓国登山の参加が決まってから渡韓まで、思うようにネット情報がヒットしないことが多く、とにかく時間さえあればネットで情報収集をしていたような気がします。特に登山ルートに関しては、日本の国土地理院のような詳細な地図が入手出来ず、概略図と携帯登山アプリのみが頼りでした。

山行当日、昼過ぎからの雨予報を気にしながら、また、未明に降った雨のせいで湿度が多い中登山がスタート。最高峰ペグンデへのハイキングルートは、とても歩きやすく整備されて、道標もわかりやすかったです。時折出てくる階段が頂上付近にもあり、老若男女たくさんの人が訪れる理由がわかりました。

山行中は、北漢山について・ユ副会長の武勇伝・追慕碑等のお話を伺うことができました。当初ピストンの予定でしたが、下山時には途中、一般登山道ではない脇道を巻きながら、クライミング班の仁寿峰下降地点/Aとスタート地点/Bを通過しました。仁寿峰スタート地点では、見上げている首が痛くなりそうなほど急な仁寿峰の壁に、登攀しているクライミング班の様子(100m程上方)を小さく見ることができました。昼過ぎからの雨予報を心配していましたが、雨に降られることなく下山をしました。

そして、そのあとに食べた冷たくて真っ白な豆乳麺のおいしかったこと！いい思い出です。韓国に何度か行ったことはあるものの、登山をしたのは初めてでした。交流登山を通して、今後韓国に行く際の楽しみ方がひとつ増えたことうれしく思います。今回、このような企画に

参加機会をいただきまして、ありがとうございました。豊田(辛)由香

初めての海外登山で要領を得ない中での出発でした。旅行社

企画旅行とは違い苦労しました。渡航前、事前打ち合わせ時からうまくいくのか心配していましたが、それだけに、色々な経験ができ大変思い出になりました。事前打ち合わせでは、色々アドバイスいただいた内野かおりさんにも感謝します。

今回の企画では韓国山岳会(CAC)との交流が大きな目的としてあり、CACの皆さまに、暖かく迎えていただき、また懇親会では韓国料理、マッコリなどもごちそういただき、とてもうれしく思いました。

私はハイキングのコースでしたが、ビュン会長、ユ一副会長、ユンさんの韓国山岳会の幹部の方々との登山は大変いい思い出になりました。特に一般道から外れた仁寿峰までのバリエーションルートは、ご案内無ければ行けませんでした。貴重な経験ができました。800m程度の山ですが、牛耳地区は韓国の登山の中心地であることを理解できました。最終日の登山用具のショッピングも含め、充実した2日間を過ごせました。ありがとうございました。

いつになるかわかりませんが、今度は同じ国立公園内の道峰山へも行ってみたいと思っています。

今回の企画は、一緒に行ったメンバーの方々との協力、特に高橋支部長の人脈、行動力のおかげと感謝しております。また市内の乗り換え案内をして頂いた豊田さん、大変助かりました。ありがとうございました。

最後に今回の訪問を快く迎えていただき、全国からクライマーを集めていただいた韓国山岳会CACのビュン会長および皆さまへお礼申し上げます。ありがとうございました。

副支部長 今津 英一朗



白雲台の山頂にて ハイキングチーム

インド・ヒマラヤ登山隊 2024 年

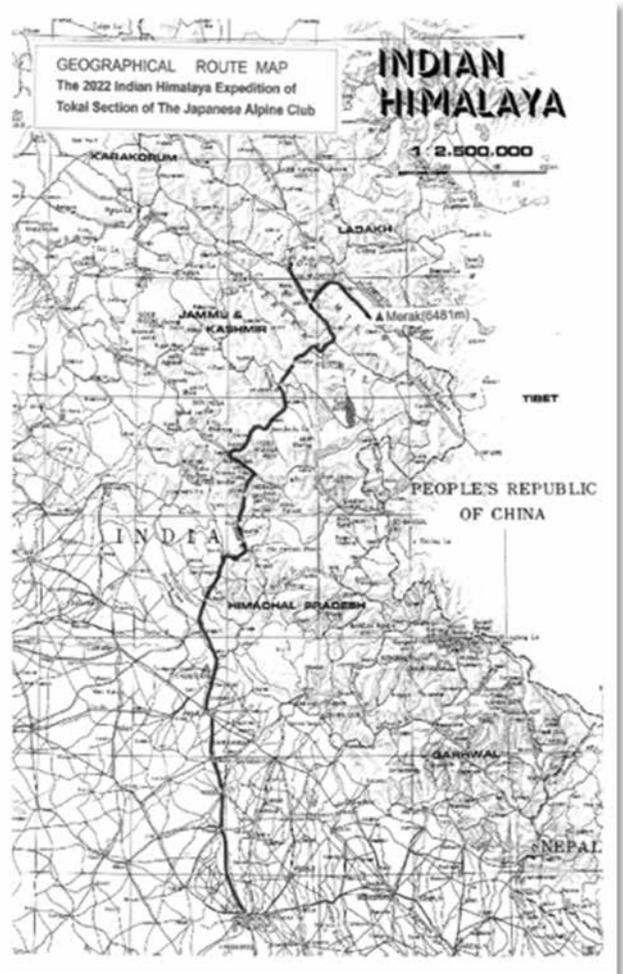
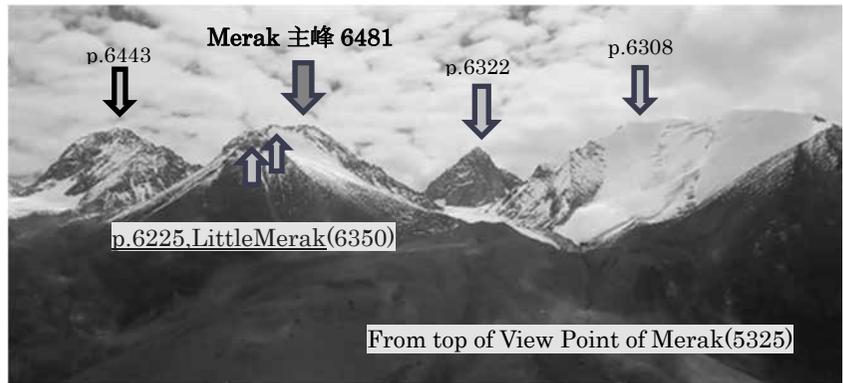
インドヒマラヤ登山隊隊長 星 一男

標記の登山隊の日本出発が、9月6日に決まった。本計画の詳細は、先の178号に掲載されている。今号はその補遺である。

インド政府は、2019年から北西部の中印国境地帯に、国防上の理由から外国の登山隊を受け入れていなかった。東海支部は粘り強く交渉を繰り返し、遂に、今年7月、登山許可と登山ビザ（Xビザ：本号トピックス2参照）を受け取ることができた。目的とする山は、パンゴン山脈で名前のある最後の未踏峰メラック(Merak,6481m)である。メラックとは地元の神が宿るという意味である。パンゴン山脈のある地方は、ラダックといい、現在もチベット文化が色濃く残っている辺境地である。パンゴン山脈の西側には、海拔4300mのチベット高原に広がる塩湖のパンゴン湖があり、約170kmで横に長く、中間に中印国境未画定線が走っている。

メラック登山のベースキャンプをパンゴン山脈の東側の標高約5000mに設置し、高所キャンプを一つ設営する。この山の山群の特異なところはベースキャンプの標高が高いことである。十分な高所順応が登頂の一つの鍵になる。氷河を詰め、岩と氷の尾根にルートを開いて登る計画である。近隣には6000mの無名峰が数座あり、条件が良ければ複数の山に東海支部の旗を立てる。隊の構成は男性5名、女性2名で、そのうち6名はヒマラヤ登山経験者であり、登頂の可能性は高い。登山終了後、印パ国境のシアチェン氷河などの探査や南インドの旅をし、「もう一つのインド」を味わう予定である。

なお、東海支部では、インド・ヒマラヤの研究成果を『インド・ヒマラヤ』増補改訂版と英語版として出版している。



上高地 一ちょっと楽しい歴史の話(3)一

池田遊紀 著 解説 和田豊司

4. 日本の山を愛したウエストン

ウォルター・ウエストンは英国国教会から日本に派遣された宣教師です。最初の来日は明治二十一年、ウエストン二十七歳の時です。

英国でも名門ケンブリッジ大学の出身、若い頃から登山に青春を賭けていたのでしょうか、アイガーにも挑戦、マッターホルンには二度登頂しています。

最初の赴任地は九州ですが、早速近辺の山々を踏破します。来日してから日本語、その他、地理文化の知識をある程度習得しました。神戸に移ってから本格的な「登山」、その挑戦が始まります。

富士山、立山、御岳など、数おおくの山行を重ねます。

ウエストンは、第一回目の来日から三年目の夏、初めて上高地を訪れます。

当然のごとく、槍を目指しますが、この年は、悪天候に阻まれ登頂を断念、翌二十五年念願の槍その頂きに立ちます。この時の案内人名は記録がなくわかりませんが、やはり翌年八月、島々を訪れます。

この時が嘉門次との初対面でした。

一行は徳本峠を越え明神付近で一泊、ひょう

たん池から下又白を経て、外国人として初めて前穂高岳登頂の記録を残すこととなります。

このとき以来ウエストンは嘉門次の登山案内人としての技術と人柄にすっかりほれ込んでしまいます。

信仰登山や、杣人や猟師が山を駆け巡る山行とは違い、山に登ることを楽しみとするスポーツ登山、「近代アルピニズム」の流れを日本にもたらした先覚者の一人がウエストンでした。

英国のアルパインクラブにはパイオニアワーク、つまり「開拓登山」とでもいえる伝統があります。ウエストンが日本の山々の、外国人としての初登頂や初登攀にこだわりを見せるのも、この流れなのでしょう。

前穂、奥穂など外国人としての初登頂を数多く成し遂げたウエストン、いったん日本をあとにします。

英国に帰国したウエストン、明治二十九年ロンドンで「日本アルプスの登山と探険」を出版、外国人が日本の山を本格的に世界に紹介した最初の書籍でした。

後にこの一冊、日本の登山史に大きな影響を及ぼす事になるのですが、この中で嘉門次のことを「彼は非常なすばしっこさで進んだ」とその身軽さと人柄を称えています。

おかげで嘉門次は後年、案内人としてすっかり有名になってしまい、以降日本の有名人を次々と山に案内することになります。

ウエストンについて、日本の教会支部から英国の本部にあてた書簡にこんな一文があります。

「ウエストンは宣教師として九州の時も神戸の時も休暇ばかりとって山歩きをしています。表向きは強度の近視眼という病気がその理由になっていますが、彼は伝道よりも登山に興味をもちすぎたのが真相のようです」



ウエストン夫妻と嘉門次 (JAC Webs より転載)

事実一カ月の夏季休暇を山行に費やし、特に日本アルプスの初登頂に激しい情熱を燃やしている事も事実です。本場ヨーロッパ・アルプスとは一味違う日本の山とその渓谷美に魅せられたのでしょうか。

教会での業績、けっして小さなものではなかったようです。東北地方の災害の際、横浜で救援物資を整え、救助活動の先陣に立ちます。先の教会本部（英国）への書簡の末尾には「……しかし、彼が正式に宣教師として（再度）日本に来ることが決定したら、私（教会日本本部）は喜んで彼を受け入れます」と結ばれています。

二度目の来日のころ、その三年間は主に南アルプスの山にその情熱を傾けます。上高地には足を向けていません。

三度目の来日は、明治四十四年から大正にかけての事でした。

英国に帰国していた時期のウエストーンは度々の講演で「日本」を語り続けます。書籍も四冊、その全てが日本の山、その生活についての論でした。

多感な、その青春の多くを日本で生きたウエストーン、日本登山史の黎明期に大きな実績を刻んだ歴史のひとつです。

明治三十八年「日本山岳会」が発足、当時世界を股にかけて活躍した「英国山岳会」を模範としての出発でしょう。

日本政府からは、日英親善の功績をたたえ「勲四等瑞宝章」が送られています。



ウエストーンレリーフ

「近代登山の父」昭和十二年梓川畔に建立された「ウエストーン碑」、戦中ひとところその像も撤去されましたが、今、にこやかです。行事の日、地元の子供たちが花を捧げます。

5. 大正池誕生

ウエストーンが日本の山に最後の別れを告げ

る日が迫っていた大正二年のこと、その八月、休暇の一ヶ月近くを上高地で過ごします。

この「登山」にはフランスス夫人を伴い、槍、奥穂、焼、霞に登ります。すでに槍は四度目の登頂でした。特に槍や穂高は、フランスス夫人が外国人女性として「初登頂」です。

この時の山案内人は勿論嘉門次です。妙義山や荒船山の頃の山案内人も同行、当然嘉門次の愛犬も一緒でした。ウエストーン持参の写真フィルムにその一行の姿が、今残っています。

河童橋の写真もその時のスナップでしょう。

翌年やはり八月、燕から大天井、二ノ俣から横尾、今でいう表銀座コースをたどり、これがウエストーンにとって最後の「登山」でした。大正三年のこと、嘉門次との親交も二十数年を数えることとなります。

嘉門次も同六年、藤山愛一郎ら一行の槍、穂高案内を最期としてその七十年の生涯をとおしました。



大正時代の大正池（シマウマクラブの絵葉書コレクションから）

大正四年のことでした。焼岳が大噴火、その泥流が梓川をせき止め「大正池」が出現します。

古文書に残る焼岳噴火の記録も多く、江戸末期その降灰は遠く関東平野まで降りそそいだといわれます。誕生したての大正池は今の十倍以上、枯れ木の数は想像が付きません。

大正池の出現は観光地としての上高地をいっそう有名にします。湖面に映る穂高の残雪、湖水に立つ枯れ木、四季の営みにいっそうの趣をそえます。

そのころ、すでに上高地には、一般の登山者も多く、昔の上口湯屋付近には上高地温泉（現）上高地温泉ホテルが開業、河童橋も今の場所に架設されています。そのたもとは（現）五千尺ホテルが登山者のために営業を始めています。

「釜ズイ道」が開通、初めて小型の乗り合いバスが上高地に乗り入れるのは、昭和八年でした。江戸時代は勿論、明治の頃、上高地へのルートとしては、今の島々から徳本峠、明神から上高地、そして中尾峠を経て飛騨へという道筋でした。古く鎌倉時代から、「鎌倉街道」の脇道として利用されていたとの記録も残っています。

明治中期、出版されたウエストンの書籍に啓発されたのでしょうか、探検家、明治の文化人の多くがここを往復、小説「河童」を著した後、自ら命を絶つことになる芥川龍之介も、このルートでした。



旧釜トンネル

<解説>

素掘りで、トンネル断面に合わせた台形の断面の乗り合いバスが 1960 年頃まで走っていた。

冬はトンネル内が凍結しアイゼンを付けないと通行できませんでした。上高地側の出口は雪崩多発地帯で多くの犠牲者が出ていました。

しかし昭和八年のこの「釜ズイ道」の開通は上高地に大変革を強めます。観光客が一挙に増加、その対応に追われることになります。(現)帝国ホテルも同年開業、稜線の山小屋の整備も進みます。

「上高地ブーム」の到来という事でしょうか。

しかしこの「釜ズイ道」、観光のためだけに計画された訳ではありません。発電所建設の運搬道として、釜ヶ淵と称された難所に本当にツルハシで掘削された工事用のトンネルでした。

計画された「発電所」の場所は今の大正池です。当時は大きく豊富な水量を湛えていたことでしょう。現在その貯水量は、焼岳からの土石

の流入で減る一方ですが、発電事業は継続されています。

実はこの時、別のダム計画が立案されていました。エピソードとしては大変に面白い(?)歴史です。同時にあまり知られていないが故に、貴重な話でしょうか。

<解説>

1924 (大正 13) 年 12 月には、京浜電力から、上高地に高さ 45 メートル、長さ 600 メートルのダムを築いて上高地一帯を貯水池化して、梓川下流に水力発電所を建設する計画が提出された。

法政大学学術機関リポジトリ 「中部山岳国立公園内の上高地 電源開発計画と反対運動—戦後後期の国立公園制度の整備・拡充(6)」
— 村 串 仁三郎 参照

「大貯水池」とも言える大きなダム計画でした。

堰堤の場所は今の河童橋付近です。その貯水池の水は徳本峠の真下を貫通させるズイ道で、島々谷に建設される発電所に導水、堰堤の長さは約二キロ、その高さも破格の規模を誇るものでした。

その湖の大きさは、まさに人類の知らない「古代梓湖」に匹敵する「大貯水池」の再現でした。

勿論この計画が実現されていたら、今の上高地は存在しません。

この計画が施行されなかったのは、当時の庭園協会などの反対があったことの実事でしょうが、もう一つ大きな理由がありました。

この上高地の地形、その成り立ちに関連しての事です。「上高地の平」は世界でも珍しい「山岳湖底平野」とも称される大変に希少な地形だと説かれています。

今「黒四ダム」のある黒部溪谷を思い比べてみましょう。大変なV字型の溪谷です。有史以前、おそらく上高地も黒部溪谷に匹敵する大溪谷だったであろうというのが今の学説です。

ある日というか、ある時代、そのV字溪谷の一部から、噴火が始まります。「まるで吹き出物のように！」次第にその山は成長、遂に梓川を堰き止めます。場所は今の焼岳付近。

激しく、その姿を増大する焼岳、行き場を失い次第にその水量を増す「古代梓湖」、想像を絶する大きな湖です。その湖水に周りの山肌からの膨大な土砂の堆積が、幾世紀(?)も続き

ます。

それ以前、もしこの場所に焼岳がなかったとしたら、檜からの水流は今の高原川、神通川が流れ富山湾に注ぎ込んでいたとの推定が成り立ちます。

<解説>

“焼岳火山群白谷山ーアカンダナ火山の活動により岐阜県側に流下していた古梓川がせき止められ生じた古上高地湖が埋積されて形成された。” 地質学雑誌 第121巻 第10号 373-389 ページ、2015年10月

やがて堰き止められた湖水の水は、ある尾根の底部を切り崩し始めます。水流は激しさを増し岩盤を削ります。

今の釜ヶ淵です。釜トンネルの場所、峻険な淵、今も激流が渦巻き、現在その流れは犀川から信濃川、新潟湾にいたります。檜を水源とする川筋がすっかり変わってしまったのです。

釜ヶ淵から流れ落ちる水量が増えるにつれて「古代梓湖」の水は干上がります。そこにはすっかり土石で埋め尽くされた「平原」が出現していました。

こんな地形、他には見当たりません、現に河童橋から横尾までの標高差は約七十メートル、

大正池からの平らなその長さ(距離)二十キロに及びます。まさしく「山岳湖底平野」世界でも希少な存在だそうです。

つい最近のことです。徳澤近くの河原のボーリング調査(旧建設省)がおこなわれました。その結果岩盤に至るまでには約二百メートルの堆積層が確認されたとの事。つまり梓川の左岸右岸の壁は本来の造山活動の岩盤でしょうが、一步河原に踏み入れたその地下は、幾重にも重なる砂礫の層。

おそらく、河童橋周辺も同じ状況です。

この砂礫の層の上に、仮にコンクリートの堰堤を造るということ、まるで砂上の砦です。まして当時の土木技術では、岩盤まで掘り下げて基礎を築くという作業は不可能です。

大正一四年、当時の京浜電力(株)の堰堤「貯水池」計画は正式に不許可となります。同時に、大正池の自然の貯水を利用した発電計画が認可されます。昭和元年の事でした。

おかげで、明神池もそのままの姿です。徳澤の横尾も湖底に沈みませんでした。今こうして「上高地」を満喫できるのは、当然先人の知恵、尽力もありましたが、人類には計り知れない大きな自然の営みとその雄大な歴史があった、という事でしょうか。

「登山計画の立て方・読み取り方講習会」開催のご案内

登山計画には、①メンバーで計画を共有する、②所属団体、家族、警察や行政機関に届け出ることによって万一の遭難時の迅速対応を図る といった役割のほかに、③登山におけるさまざまなリスクを予測し、それを登山前に除外しリスク軽減を図るという、重要な役割も持っています。

ですから、単独行だからと計画書を作成しない・アプリだけを頼りに登る・リスクを想定しないで漫然と計画を立てる・グループ山行でもらった計画書を読み込まないといった行動は、登山前からすでに不安全な行動を取っていると いえます。

今回、技術向上委員会では、下記のとおり、清水克宏委員長を講師に、「登山計画の立て方・読み取り方」についての講習会を開催します。初級者の方はもちろん、雪山・沢・バリエーションルートなどを志向する方にも役立つ情報を盛り込みますので、ぜひご参加ください。

1 講習会内容

- (1) 日程 2024年11月24日(日) 15:30~17:30(登山学校のカリキュラムとタイアップ)
 - (2) 会場 OMCビル 東海支部ルーム 名古屋市 中区 富士見町8番8号
 - (3) 講師 清水 克宏(技術向上委員長)
 - (4) 内容 リスク低減に役立つ登山計画の立て方+読み取り方を、実例などを交え講習する。
- ※登山学校用向けの基本的な内容を押さえますが、資料は雪山、沢の計画など豊富な情報を含み、後半はそのような内容にも触れていきます。東海学生山岳連盟や、アルパインクラブの方などにも参加をお勧めします。

2 参加申し込み 締切 11月8日(金)

右のQRコード、下のURLよりお申し込みください。

<https://forms.gle/E3u9eajTH7ZVGYGZA>

技術向上委員会



TOPICS 1

苗木城に登る

7月20日支部友山行で富士見台に行く途中、苗木城に登った。麓から山麓迄170mの急峻な地形を活かした山城である。

石垣の残る天守閣跡からの眺望は360度で、恵那山やこれから向かう富士見台が間近だ。真下を流れる清流木曾川の水面が眩しい。

その木曾川に建設途上の立派な鉄橋の架かっているのが見えた。何であんな所に鉄橋なんだ。近くに道路や鉄道らしきものも見当たらない。皆んなで首を傾げながら下山する。途中で苗木城を案内するガイドさんに擦れ違ふ。聞いてみた。答えは、リニア用の架橋だとのこと。合点が行った。着々と工事の進んでいることが実感できた。

このリニア、何処だかの元県知事の駄々で開通予定が3~4年伸びたとか。絶対に乗るぞと決めていたのだが、果たしてそれ迄こちらの寿命が……。(田中 進)



木曾川に架かる建設途上のリニア用鉄橋

TOPICS 2

IMF から X 登山ビザを取得

インドヒマラヤ登山は、今回で15回目である。

遠征許可を得る為の作業は、今でも大変な作業と時間がかかる。インドの首都デリーにあるIMF(Indian Mountaineering Foundation)に申請書を郵送し、IMFは国内の各省、地方自治体等に了解を得る書類を送る。

2011年の時代は国際郵便で、申請書を13通コピーして送っていた。この年の11次隊は、日本を出発する半月前に、パスポートが返却された。代わって、今年のX登山ビザ申請は、全てメールによる手続きとなり、時間的にも簡略されている。

メラック峰のある山域は、中国との国境に面している。そのため2022年は、許可が下りず、南下した地域の未踏峰に転じた。再度、今年1月に、メラック峰遠征の申請をデリーのIMFにメールで行い、6月末に登山許可が下りる。最後は在東京のインド大使からの許可が7月15日によろやく出て、X登山ビザの承認付きのパスポートが返却された。

インドの山に登ることは、ツーリストビザで登れる山も多くなったが、国境近くの山々は依然として登山許可の取得が難しいのが現状である。(星 一男)

INDIAN MOUNTAINEERING FOUNDATION
APEX BODY FOR MOUNTAINEERING, TREKKING,
SPORT CLIMBING & ALLIED ADVENTURE ACTIVITIES
(GUARDIAN OF THE HIMALAYAS)

LIFE
2509/IMF/FE/2024
31st May 2024

Embassy of India,
Tokyo, Japan

Subject : Japanese expedition to peak Merak (6481 M) in Ladakh
by 07 members team from 04.09.2024 to 14.10.2024

Dear Sir,

- The above expedition has been cleared by Ministry of Home Affairs, Govt. of India, vide their letter No. 13030/01/2024-SE(JKL) dated 22nd May 2024 (photocopy enclosed).
- You are requested to kindly issue the "X" Mountaineering Visa to the under-mentioned members of the expedition :-
 - Mr. Hoshi Kazuo
 - Mr. Masato Oki
 - Mr. Kaoru Haseyama
 - Mr. Kazuki Hiroaki
 - Mr. Indo Toshihiro
 - Mrs. Indo Yoshiko
 - Ms. Kume Hitomi
- Please acknowledge.

Thanking you,

Yours faithfully,

Col S S Phogat(Retd.)
Director

Copy to :-

- Leader
Mr. Hoshi Kazuo
Japan

For information and necessary action please.

6, BENITO JUAREZ ROAD, OPPOSITE ANAND NIKETAN, NEW DELHI - 110 021 (INDIA)
Phones : (+91 11) 2411-1211, 2411-1572 E-mail: director@indimount.org Website: indimount.org

X 登山ビザ

第8期登山学校スタート

登山学校運営委員会 服田 康宏

登山学校は7月6日(土)、OMCビル4階講堂にて第7期修了式および第8期入校式を執り行った。

午前の修了式では、高橋学校長(支部長)からの式辞、卒業生の答辞のあと、出席者ひとりずつに修了証書を授与した。最後にはクラスごとに記念撮影をするなど、終始和気あいあいとした雰囲気ので終えることができた。

午後からの第8期入校式ではスタッフ紹介のあと、クラスごとに分かれてリーダーから運営規約や指導要領、年間スケジュールの説明をおこない、終了後は机上講習のオープニング講座として鈴木慎吾さんによる「地図ソフトとスマホ・アプリの活用法」を開催した。



挨拶する高橋学校長

Bクラスのテーマは「テント泊山行、雪山山行の技術を学ぶ」。無雪期のテント泊山行や積雪期にはアイゼン、ピッケルを使った登山をおこなう。現地山行は原則月1回で、さらに年間8回の机上講習が組まれている。いくつかの講座は他の委員会との合同開催で、広く支部関係者に受講していただける講座となっている。

近年は、平易な登山道での転倒事故が多発している。また体調不良や高度障害などで救助を受ける登山者も多い。第8期も安全登山を第一に、一人でも多くの自立した登山者を育成していきたいと思っている。



終了証の授与

第8期は、Aクラス(初級)が3教室で受講生18名、Bクラス(中級)が1教室6名でスタートする。受講生24名のうち新規は13名。内訳は支部友員が5名、支部ホームページからの応募が4名、夏山フェスタでの勧誘が4名だった。年代別を見ると50代が最も多く13名、次に60代で7名、40代が4名となった。

Aクラスのテーマは、「自立した登山者になるための知識・技術の習得」である。山行は日帰りに限定し積雪期にはワカン、軽アイゼンを使用する。読図を中心に山でのルールやマナー、装備に関する知識、正しい歩き方やセルフレスキューの基礎などを学習する。



鈴木慎吾さんによるオープン講座

Aクラス カリキュラム

日程	(I)行事・机上講習	(II)現地講習
7月 (I)6日(土)	第8期入校式 机上講習 【地図ソフトとスマホ・アプリ活用法】	
8月 (I)18日(日) (II)25日(日)	机上講習 【装備 夏山編】 【登山の基礎知識】	山の歩き方を学ぶ 猿投山・鍋倉山など
9月 (I)7日(土) (II)8日(日)	机上講習 【読図】	読図訓練① 鳩吹山・貝月山など
10月 (II)26日(土) ～27日(日)		朝明ミーティング 鈴鹿の山
11月 (I)24日(日) (II)10日(日)	机上講習 【装備 冬山編】 【山岳遭難の現実】 【登山計画の立て方・読み込み方】	読図訓練② 屏風山・三池岳など
12月 (II)15日(日)		読図訓練③ 宇連山・寧比曾岳など
1月 (II)19日(日)		雪上歩行① 入道ヶ岳・養老山など
2月 (II)9日(日)		雪上歩行② 藤原岳・綿向山など
3月 (I)1日(土) (II)9日(日)	机上講習 【山の天気】	雪上歩行③ 大日ヶ岳・鷲鞍岳など
4月 (II)13日(日)		長時間歩行① 御池岳など
5月 (II)18日(日)		長時間歩行② 雨乞岳など
6月 (II)未定		受講生企画
7月5日(土)	第8期修了式	

Bクラス カリキュラム

日程	(I)行事・机上講習	(II)現地講習
7月 (I)6日(土)	第8期入校式 机上講習 【地図ソフトとスマホ・アプリ活用法】	
8月 (I)18日(日) (II)24日(土) ～25日(日)	机上講習 【装備 夏山編】 【登山の基礎知識】	テント泊山行① 八ヶ岳・北八ヶ岳など
9月 (I)7日(土) (II)14日(土) ～15日(日)	机上講習 【読図】	テント泊山行② 八ヶ岳・白山など
10月 (II)19日(土)		読図山行 経ヶ岳(福井)・経ヶ岳(伊那)など
11月 (I)24日(日) (II)16日(土)	机上講習 【装備 冬山編】 【山岳遭難の現実】 【登山計画の立て方・読み込み方】	読図山行 鈴鹿の山など
12月 (II)22日(日)		雪上歩行① 猪臥山・位山など
1月 (II)18日(土)		雪上歩行② 貝月山・蕪山など
2月 (II)15日(土)		雪上歩行③ 富士見台・福地山など
3月 (I)1日(土) (II)8日(土)	机上講習 【山の気象】	雪上歩行④ 大日ヶ岳など
4月 (II)26日(土)		読図山行 鈴鹿の山など
5月 (II)17日(土)		読図歩行 美濃・湖北の山など
6月 (II)未定		卒業山行 (受講生企画)
7月5日(土)	第8期修了式	

東海支部メルマガ登録のお願い

東海支部ではメルマガ「東海支部だより」を毎月1回発信して支部からの連絡、行事の案内や各委員会からのお知らせなどを支部員・支部友会員の皆さんに配信しています。また急ぎの連絡を臨時発信することもあります。

このメルマガは登録した希望者に配信されます。**ぜひ登録してください。**

登録は東海支部のホームページの右側メニュー「支部メルマガ読者登録」で簡単にできます。登録が出来ない場合は総務にご相談ください。

登録ページ URL : <http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/>

[modules/pico02/index.php/](http://modules/pico02/index.php/content0004.html)

[content0004.html](http://modules/pico02/index.php/content0004.html)



山行委員会だより

山行委員会委員長 稲葉 真英

瑞牆山山行に参加して

6月15、16日、瑞牆山山行に参加してきました。この山行は、『ゆるキャン△聖地巡礼山行』と銘打って同漫画・アニメの登場する山麓のキャンプ場（聖地）に泊まって山に登るというシリーズ企画です。

自分としては、初のテント泊の支部山行であり、申し込んでも良いか躊躇しましたが、テントを担ぐ山行よりはハードルが低いと考え、思い切りました。初めてご一緒するメンバーも多く、行く前まではとても緊張していました。しかし、行きの車内は勿論、昼食や買い出しから楽しく、更には焚き火を囲んでの食事もお酒も美味しく、リーダーはじめ他の参加者の皆さんと大盛り上がりでした。

2日目の山行は、早朝の大雨のため、残念ながら瑞牆山登頂は断念して途中までで折り返すことになってしまいました。しかし、雨で濡れてキラキラとした新緑や、道沿いの沢、滝はとても気持ちが良く、存分に癒されることとなり、あらためて登頂だけが登山ではないと認識しました。

今回の山行を通じて、いろいろな山の楽しみ方があると教えていただき、他にも別の楽しみ方を見つけていきたいと考えるようになりました。でも、その前にまずは次の「ゆるキャン△山行」に参加するとともに、テントを担ぐ山行にもチャレンジしてみたいと思います。

(加藤 恵美)



山行委員に就任して

山行委員で新人と言える時期は過ぎてしまいましたが、私にとっての山行委員会活動への思いをお話します。

先ず何より支部員の方が登山を安全で身近なスポーツだと言う事を認識して頂くこと、また、支部山行に参加してもらうことで目標を立て充実した登山ライフを理想的に歩んでもらえること、更にはまた生きがいを持つことで日々の生活が楽しくなるそのような手助けを委員会活動で出来たらと考え、山行委員会に参加しております。

そして、生意気ではありますが、山行を担当されるリーダーのお力を借りして、行きたかった山への山行を楽しんで頂くのはもちろん、登山に必要な「体力」「知識」「判断力」、リーダーの経験談、指導からの「学び」、またパーティ登山での長所、短所、その他ソロ登山では得られないものを体験していただき、参加される方の目標がさらに現実的なものとなるよう、お手伝いが出来たらと考えております。

これからも自己研鑽し、未熟者ですし微力ではございますが、皆さまのお役に立てるよう尽力致す所存です。どうぞこれからもよろしくお願ひ致します。

(大西 伸幸)

亀の歩きで富士山を目指す！

一亀の会 富士山登頂報告

亀の会 加藤 守彦

「成功の反対は失敗ではない。成功の反対は（失敗を恐れて）何もしないことだ。」

アインシュタイン

参加申し込みの時、「登頂できる自信はないが、この機会を逃したら富士山登頂はできない。最後のチャンスだと思う。申し込みしなかったら後悔すると思って、批判も覚悟のうで申し込みます。」という人が幾人もいた。

今回の山行、半年がかりで取り組んできた成果が出て、富士登山の念願は達成できた。

なお、富士山高齢登拝者名簿は、11月末に富士山浅間大社から、登頂者本人に送られる。山田 弘さんは1合目から登頂した全盲登山者の最高齢（数え年80歳）を確認したかったが、大社には視覚障害者としての記録は取られていないとのことだった。

参加者

富士登山組11名 御中道組5名

富士登山組は、80歳代は83歳を筆頭に5名、70歳代は、もうすぐ70歳を迎える人を含め6名。平均年齢、年齢構成の中位点は、いずれも78歳。御中道組を含めても、平均年齢、年齢構成の中位点は変わらず78歳。

健康寿命（日常生活が制限されることなく生活できる）は、男性72.68歳、女性75.38歳（2019年発表）。参加メンバーで、健康寿命を超えていないのは、2名の女性だけ。視覚障害者の2名に参加断念をお願いした。

10年前、精進湖から青木ヶ原樹海をへて吉田口コースを3泊4日の行程で登った時、3日目に全員登頂を果たし、山頂の小屋で宿泊した経験から（全盲者2名参加）、今回も、「一応の技量とスタミナがあれば誰でも参加可」で募集したが、サポート体制が不十分なため、視覚障害者は1人に限定。他の2名の視覚障害者には泣く泣くお断りした。高齢者集団である亀の会のサポート体制の限界を痛感した。

（宿の確保が難しく、日程を1日短縮したことも大きい。）

結局、富士登山挑戦者は11名。うち登頂者9名。（2名は高所障害のため標高3200mで断念。）

行程

「1合目からの登山のこだわり」

山頂を踏むことだけが富士登山ではない。1964年東京オリンピックの年、富士スバルラインが開通。富士吉田ルートは5合目からスタートするのが一般的になった。馬返しからの登山道は、あつという間に衰退し、茶店なども廃屋と化した。しかし歴史ある登山道。やっぱり富士山は1合目から登りたい。樹林の中を、富士講のたどった道を歩き、女人結界の2合目を実感し、廃屋や石畳など、歴史に思いを馳せながら6合目まで歩くことにこだわった。5合目までは、登山者も少なく、静かな古道歩きを楽しめる。

御中道組は、5合目から森林限界の天地の境といわれるトレッキングコースを御庭・奥庭まで歩く。ダケカンバ、シャクナゲ、コケモモの花などを楽しんだ。これも富士山だ。

コースと所要時間

7月16日(火) 天気：雨

金山(7:00)…馬返し(駐車・昼食)(11:10~11:50)

歩行：馬返し(1440m)(11:50)…6合目星観荘(2325m)(16:25)



7月17日(水)～18日(木)

【富士登山組】 11名

17日(水) 天気:曇り時々晴れ 山頂部は霧、一時雨、風強い

星観荘出発4:40(入山規制が効いたのか、登山者はさほど多くない)…富士山本宮浅間大社3710m13:20(参拝記帳・昼食・記帳に思いのほか時間がかかった。「献酒をいただいた器のカワラケは、噴火口に投げると祈願が成就する」とのことだったが、濃霧で噴火口は見え、あてずっぽうで噴火口に向けて投げた。)



14:20下山…(砂走・しばらくの間、霧と雨、風の中を歩く。)…太子館3100m(砂走と別れ登山道へ・登山道に入ったら、すれ違うのは中国人グループなど東洋系のツアーグループがほとんど)…東洋館3000m16:20(4名宿泊)…日の出館2750m18:20(7名宿泊)

2名は8合目白雲荘(3200m)にて登頂断念…東洋館にて下山パーティーと合流

18日(木) 天気:曇り時々晴れ

東洋館発(4名)6:20…(花小屋まで砂走路)

日の出館発(7名)6:40…花小屋2700mで東洋館4名と合流6:55…馬返し11:20

御中道組と合流し、馬返しの茶屋でコーヒータム(無事目的を果たした達成感もあり、コーヒはことのほか美味しかった。)

12:10乗車…泉水温泉入浴…金山18:20(解散)

【御中道組】 5名

17日(水)

星観荘8:00…経ヶ岳2386m…泉ヶ滝…富士スバルライン5合目…御中道入口…御庭(昼

食)…奥庭自然公園入口…御庭(奥庭)…星観荘15:15

18日(木)

星観荘7:00…馬返し10:05(茶屋にて富士登山組の到着を待つ)

「厳しい山も、亀ペースで時間をかけて歩けば踏破できる」を証明した

初日、高度差900mを雨の中歩行。4時間25分、2日目山頂まで高度差1400mの上りと、高度差1000m(日の出館)の下りを13時間40分かけて歩いた。下山時、山頂近くから濃霧と雨と強風がしばらく続いたが、皆よく頑張った。

疲れのたまってきた3日目は東洋館から馬返しまで高度差1510mを4時間50分かけて下りた。特に東洋館3000mから日の出館2750mまでの岩場の下りは、疲れもあり厳しいものだった。

このような厳しい条件を克服して踏破できたことは、参加者の今後の山歩きに大きな自信になったと思う。無理せず、みんな同じ亀ペースで歩いたのが成功の一因。

失敗だったのは、標高の高いところで泊まれば、2日目の負担が少しは軽減されると思って、やっとのことで宿を確保したが、7合目～8合目の道は勾配のある岩場。下山は、砂走であれば山頂部から6合目までコースタイムで3時間弱。岩場の登山道を下山するのに比べれば、時間も短く、苦労も少なく下りられたところを、8合目、7合目に宿を取ったので、登りのルート上の岩場を難儀して下り、7合目の日の出館まで4時間もかかった。しかし、みんな元気に小屋に着いた。

富士登山のきっかけとその後の経緯

昨年8月に亀の会の志賀 傳さん(享年満87歳)が亡くなられた。年末の亀の会忘年会の際、「亀の会で、富士山に登頂し、山頂の浅間大社の高齢者登拝簿に記帳してはどうか」との提案を志賀さんから受けていたという話から、お酒の勢いもあって「行こうか?」「よし行こう!」ということになった。

・本年1月19日、亀の会運営会議で、富士登山構想と富士登山に向けてのトレーニング山行「富士登山すごろく」を企画し、毎月、東に向かって富士の名のつく山を登ることを決める。(内容後述)

・3月31日 参加申込み者 富士登山15名(うち視覚障害者3名)、御中道6名(うち視覚障害者1名)

・5月7日 山小屋の申込受付開始日。山小屋の宿の予約が取れず登山計画を仕切り直すことになった。3泊4日を2泊3日にし、星観荘～山頂往復に変更。このあたりから、亀の会の富士登山について心配の声が上がったようだ。

・5月24日 視覚障害者のサポーター確保の打ち合わせ。富士登山の参加者も高齢化し、サポートできる人が限られている。視覚障害者の富士登山は山田 弘さんだけにしよう。

・その後、体調不良・病気、介護などによる参加辞退者が出て、最終的には、富士登山組11名、御中道組5名の16名となった。



山小屋宿泊予約システムの変更に翻弄される

富士吉田ルートでは、外国人登山者の急増などにより、今年から「入山者を1日4千人に絞る、原則事前予約制にし、入山料を2千円徴収する」ことになった。

また、コロナ禍以降、山小屋も宿泊者を制限し、インターネットによる事前予約制が導入された。

今年の予約受付開始は、5月7日12時から。12時を待って山小屋にインターネット接続するも通じず、13時過ぎにやっと通じたと思ったら、7合目以上の山小屋は、7月、8月は全て満室。更に山頂小屋等一部の山小屋は、一組5人以下が条件。取れた宿は、6合目の星観荘2325mのみ。また、大半の小屋は申し込みと同時に、登録した金融機関から宿泊料を自動引き落としされる。

6月6日 星観荘から山頂を1日で往復するのは、亀の会としてはキツイ。標高の高いところで泊まれば、2日目の負担が少しは軽減されると思って、宿泊先を分宿する方針に切り替え、皆で手分けして山小屋を当たり、蓬萊館(3150m)1名、東洋館(3000m)4名、日の出館(2750m)8名の予約が取れた。しかし、既述のとおり、まずい計画修正だった。

※宿泊当日の山小屋の宿泊人数は十分余裕があった。予約開始日にシステム障害があったか、ツアー各社が定員枠一杯に予約し、その後人数を減らしたのか?少人数であれば宿は、焦らなくても予約が取れたと思われる。

富士山すごろく

富士登山に向けて、各自週1回の山歩きを目標とするとともに、トレーニングとして、毎月富士の名のつく山を登る。回を重ねる毎に標高を高くしていく、名付けて「富士山すごろく」山行を実施した。

- ・2月22日 尾張本宮山(尾張大富士) 292m、尾張富士275m 参加者19名
- ・3月20日 三河本宮山(三河富士) 789m (雨天中止)
- ・4月26日 真富士山(静岡県) 1343m 参加者19名
- ・6月7日 黒富士(山梨県) 1633m 参加者15名
- ・6月19日 蓼科山(諏訪富士) 2530m 参加者18名
- ・7月3日～4日 仙丈ヶ岳(お馬富士) 3003m 参加者15名

富士と名のつく山だけあって、いずれの山も亀山行としては険しい箇所があり、時間をかけて上り下りした。下りに、コースタイム

ゆっくり着実挑んだ富士

一歩、二歩、また一歩。力のないゆっくりと歩みを進めながら山の頂を目指す登山愛好家のグループがある。日本山岳会東海支部の所属団体の一つで、会員の平均年齢が77.5歳の「亀の会」だ。有志が7月中旬、2泊3日の行程で富士山初登頂。11人中9人が登り切った。代表の鈴木さん(77)「熱田区」は「達成感と喜びをみんなに分ち合えた」と誇りに語る。(中川耕平)



平均77.5歳「亀の会」有志11人中9人頂上へ



初めての富士登山を振り返り「有難」と達成感を分かち合えた」と話す鈴木さん(熱田区)

代表の熱田区・鈴木さん「喜び分かち合えた」

東京都の富士登山愛好家のグループが、今年2月以降、標高2000以上の高山から体を慣らし始め、7月上旬には南アルプスの仙丈ヶ岳(3033メートル)を1泊2日で登り、自信を養っていた。富士山に県内の11人が参加。7月15日の正午前に山梨県側から入る「玉田ルート」の1合目から出発した。4時間半を歩き、6合目に到着。2日目は早朝に山荘をたたく。約8時間登山後、途中2人が断念したが、途中たどり着いた山頂へは約3人が入った。現在は60代後半から70代の人が中心で、毎月1回、低山の登山をこなしている。富士山への挑戦が決まったのは昨年夏の夏休みの山頂にあり、数え年で70歳以上か記憶できない富士山を民間大社の「高齢者登山会」に名前を残すと盛り上がり、とどろきで計画がスタートした。参加希望者は高所に対する

の2倍近くかかった山もあった。しかし、「亀ペースで時間をかければ、難所も切り抜けられる」との自信を得た。最後の仙丈ヶ岳山行は、高所順応も兼ねたもの。2日目は8時間半歩いた。長時間歩行についての自信となった。

高所登山の心得の情報提供

技術的にはさほど高度ではないものの、富士登山は、高齢者には、いろいろな壁がある。「取れるだけの対策は全て取る」と、あれこれ対策を講じた。情報提供も大きな対策。鹿屋体育大学教授山本正嘉著『登山の運動生理学とトレーニング学』を中心に、高所登山の留意事項の情報提供をした。

・3月11日「高所登山のトレーニングと予防策」

鹿屋体育大学教授 山本正嘉

長時間歩行のトレーニング、筋力トレーニング、柔軟性トレーニング法

・6月6日「富士登山における安全確保のためのガイドライン」

富士山における適正利用推進協議会発行 富士山特有の安全確保の注意事項

・6月14日「登山の疲労とその対策 下りで起こる疲労」鹿屋体育大学教授 山本正嘉 特に下りの疲労についての留意事項、注意喚起

・6月18日「水分コントロール(計画的な水分補給)」 安田三弥医師 計画的な水分補給の心得

・6月25日「高山での呼吸法(意識呼吸)」 鹿屋体育大学教授 山本正嘉 高山での上手な呼吸法

・6月25日「富士山に登る」 鹿屋体育大学教授 山本正嘉

富士山は日本一厳しい登山の認識を。高山病、歩行速度、トレーニングの留意事項 **持病報告・告知**

6月25日 「リーダーが認識しておくべき持病」の告知を参加者に要請。半数が持病持ちの申告をした。あわせて、「緊急時告知書」

【中日新聞市民版】2024/8/24朝刊掲載

をザックに入れるよう要請。

長時間運転に感謝

富士山すごろくの真富士山トレーニング山行以降、2名の会員に毎月遠距離運転をしていただいた。これがなければ今回の企画は実現できなかった。厚くお礼申し上げます。

半年にわたる「富士山すごろく」と富士登山は、このようにして無事幕を閉じた。

志賀 傳さん！約束果たしたよ！

亀の会の過去の富士登山

・2010年7月馬返し～5合目佐藤小屋(泊)～御中道めぐり1泊2日 17名 マイクロバス

・2014年7月 亀山行11名 3泊4日 レンタカー、自家用車各1台

精進湖湖畔(泊)～青木ヶ原樹海～富士スバルライン～星観荘(泊)～富士山頂～山頂お鉢めぐり～富士山頂・山口屋(泊)～御殿場ルート～宝永山～富士宮駐車場

好天に恵まれ、全員富士山・剣ヶ峰登頂・お鉢めぐり達成 全盲の山田弘さん、吉田清恵さんも参加

・2018年9月村山古道 12名 1泊2日 水ヶ塚駐車場～村山古道～宝永山荘(泊)～御殿庭～須山御胎内～水ヶ塚駐車場

平出和也君のこと

常任評議員 尾上 昇

K 2 (8611m)の西壁に挑む平出君から、出発直前の5月末に電話を貰った。用件は、西壁の情報(様子)を知りたいというのだ。と言われても私には西壁を語る術を持ち合わせていない。

強いて言えば、1997年東海支部が送ったK 2 隊の総隊長を仰せ付かったというぐらいのご縁である。この隊は、隊長が田辺 治で西稜の8200m地点から西壁に入り直上して頂上に立っている。

こんなことから田辺とは事前にルートの検討もしたし、帰った後も検証の場を持ったのでその点で申せば、少しは西壁についての知識を持っていると言えなくはない。

その田辺であるが、2010年9月ダウラギリで雪崩にやられ今はいない。平出君からは、私の立場とそれを承知の上でのお尋ねである。

返答は、次の通りで田辺の受け売りである。

「西壁は、特に下部は落石とセラック(氷塊)の崩壊が激しい。この観点から東海支部隊は、西稜上部の8200m地点から西壁に入っている。案の定、上部は安定していて登攀上のリスクは感じられなかった」。

大した情報ではない。この程度のことは、百戦錬磨の平出君なら百も承知の筈だ。恐らく出発前の気休めで親しい人への「今から行って来ます」の挨拶代わりに、私もその中の一人だったのであろう。

ついで、でとは何だが、これも参考になればと田辺隊長のもとで3度挑んだ東海支部の

冬期ローツェ(8516m)南壁隊の話もさせてもらった。ちなみにこの隊は、3回目挑戦の2006年の12月に南壁の登攀に成功している。

ローツェについても田辺の受け売りである。

「ローツェ南壁は、K 2 西壁よりも遥かに悪い。このリスクを回避するために敢えて大変厳しい登攀を強いられる冬期を選択した。その理由は、冬期の低気温によるビセット効果で落石の危険が大幅に軽減されよう。また氷も固く締る筈だからセラックの崩壊も起こりにくい」。

結果は、確かに冬期の登攀には厳しいものがあつたが、落石は3回の南壁登攀中一人隊員が肩に落石を受けただけで、それも軽傷で済んでいる。セラックの崩壊は起きていない。

田辺の慎重さがそこから窺えるのだが、その田辺が雪崩でやられてしまっているのだから何をか言わんやだ。

実は、電話の平出君との会話の中で田辺が言っていたのとは少しニュアンスの違う表現をさせてもらっている。一文字だけである。田辺は、「西壁の下部は、落石やセラックの崩壊が激しい」とは言っていない。田辺は“激しい”ではなく“巣”だと言った。

私は、その“巣”という言葉聞き何となく暗いイメージを抱いてしまった。このことから平出君に西壁の下部が、四六時中、落石とセラックの崩壊が頻発する大変危険な場所“巣”だとわざわざ強調しているような気がして、これから西壁に向かう人間にいらぬ不



K 2 西壁 (右の稜線が西稜)



ローツェ南壁 (2006年東海支部完登)

安を抱かせてもとの思いで言葉を言い換えさせてもらった。

以前からK2西壁への挑戦は、平出君本人から中島健郎君と一緒にやると聞かされていたのだが、それを聞いた途端、“巢”が引っ掛かって「西壁止めたら」が口から出かかった。

私は、平出君を世界一屈強なクライマーと評価してきている。平出・中島のペアも最強である。二人は、あらゆる困難と厳しい修羅場を潜ってきている。そんな男達に何で私ごときにそんな忠告めいた台詞が吐けようか。仮に話をしたとしても全てを悟っている二人にとっては、とんだ御節介事だろう。世間では、これを老爺心と呼ぶ。

只、私の胸中からは、“巢”は澱となって消えず、併せて嫌な予感を覚えるのを禁じ得なかった。

7月27日午前7時、西壁の5700mに設置されたアドバンスベースキャンプ（前進基地）に陣取っていた撮影隊のスタッフが、7500m地点で二人が氷と共に滑落するのを見ている。1000m程落下したところでロープで繋がったままの動かない二人を視認。ヘリで救助を試みるが壁が急峻で近づけず救助不能。下からのマンパワーによる救出も検討したが、二重遭難のリスクが高いとのことで断念。

恐らく氷と共に滑落したとあることからチリ雪崩（小さな雪崩）に巻き込まれたか、セラックの崩壊に遭って飛ばされたかのいずれかであろうことは、想像に難くない。

昨年の10月28日名古屋市医師会協同組合の創立60周年記念の記念講演会の講師として、私と平出君が招かれた。テーマは、一人は何故、山に登るのか一である。私との対談の中で平出君は、こんなことを語った。

「私のことを無謀だと思っている人が多くいることを知っている。私は、決して無謀では無いと思っている。足元にある危険を危険と認識した上での行動は、より安全につながるのだ。困難であれば果敢に挑戦するが、危険と判断したら退避する。リスクは取らないという考えを持っていないと命を失う」。

それでも平出君は、遭難している。

私は、私の嫌な予感が当たったなどとは言わない。平出君の近著『What's Next?』の中で本人が述べている“43歳の壁”、それが



名医協 60周年記念祝賀会会場にて
（前列左 尾上、右 平出と名医協の先生方）

その通りの現実のものになったとも思わない。今回の遭難事故をどのように評すればいいのだろうか。私には、現す言葉を見い出せない。

敢えて言わせてもらうなら“山とは、そして山登りというものは、そうしたものなんだ。だから山なんだ”と言うしかない。

今は、只二人の冥福を祈るのみである。更に申し上げれば、二人の好青年、私の年からいけば45歳と39歳は、まだ青年のままなのだが、その二人の好青年に会えなくなってしまったことが、実に寂しくてならないのだ。残念、無念の一言に尽きる。

会ったことのない人は、きっとあれだけハードなピオレドール賞を複数回取るような凄い登山をやっている連中だから、さぞや逞しい山男と想像する向が多いと思う。豈図らんや二人共むしろ華奢で礼儀正しく快活な、まさに好青年、本当に爽やかないい奴等なのだ。どこにあのパワーが隠されているのだろうかと訝りたくなる。

平出君から貰った電話には、続きがある。話し終えた最後に、餞別を送ろうと思い銀行の口座番号を尋ねた。「尾上さん、成功したら健郎と一緒に名古屋へ報告に行きます。その時のご褒美いただきます。沢山期待しています」。

電話の向こうから、明るい弾んだ笑い声が、そして同時に、あの優しい目差しの平出君の笑顔が脳裏に浮かんだ。それは、鮮明に今も私の臉に焼き付いている。

同好会紹介コーナー

スケッチクラブ 山口 公子
愛知牧場-涼風に吹かれて

7月31日(水)、名古屋は猛暑、でも東の郊外-愛知牧場には涼風が吹いていました。名鉄豊田線黒笹駅に6名が集合して向かいました。

2・3日前には、気温40℃を観測、猛暑続きで心配でしたが、風が心地よく、涼しい場所を見つけて、各自ポニー・馬・牛・ヒマワリ畑・ブルーベリー畑と、丘の上に登って行きました。

夏休みで家族で来たり、恋人同士で来たりと、大勢の来場者に交じってのスケッチでした。

昼食時も雑談が楽しく、盛り上がりました。牧場名産のソフトクリームは美味しかった!

恒例のスケッチの品評会、ヒマワリや、仲間の姿が描かれているのを見ると、嬉しくなります。

参加2回目の私のために、石井代表から、日本山岳会と東海支部の組織・活動・参加などに



愛知牧場のスケッチメンバー

ついて、説明して頂きました。これからも皆さんと楽しみたいと思います。

代表: 石井 仁

事務局: 村中征也・岩田智与子

ゴザフェス 2024 のご案内

東海学生山岳連盟では、今年もゴザフェスを開催いたします。

ゴザフェスは山が好きな学生の交流を目的として、藤内小屋をベースに御在所岳のフィールドで行う、東海学生山岳連盟の最大のイベントです。

1日目はクライミングの体験会と懇親会、2日目はそれぞれのコースから御在所岳に登り、山頂で全員が集まり記念撮影をします。

クライミングをやらない方のために、藤内小屋から一般登山道を歩くパーティーもあります。イベントを盛り上げるためにも支部員の皆様にもご参加いただければ幸いです。よろしくお願ひします。

日程 2024年9月28日(土)～29日(日)

行程 【1日目】

9:00 御在所裏道登山口集合

10:00 開会式

10:30 クライミング講習会

15:30 藤内小屋にて懇親会準備

17:00 懇親会開始

*当日は17:00までに藤内小屋にお越し下さい

【2日目】

4:30 クライミング組 出発

8:00 一般登山組 出発*裏道コースなど

12:00 山頂集合・記念撮影

*小古真也さんによるセルフレスキュー講座を開催

13:30 藤内小屋 発

15:00 御在所裏道登山道にて解散

宿泊 テント泊もしくは小屋泊(藤内小屋)

費用 3000円(懇親会費)*藤内小屋での宿泊の場合は別途負担

〆切 9月17日(火)

申込先 <https://forms.gle/opfaAbYUElnzyRjL9>

問い合わせ先: 東海支部総務委員長 今津 imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp

東海学生山岳連盟

東南アジア・インド紀行の話Ⅱ ～アジャンタ・エローラ石窟～

支部員 田中 進

アジャンタ・エローラ窟を見に行きたいと思っていた矢先、ハリハラン氏を師と仰ぎ、バンガロールで一緒に住んでいた加賀谷氏の薦めもあり、2009年7月13日からインドに出かけました。タイ・バンコク経由ムンバイには深夜到着。翌日は朝から雨の市内見学、伊藤祐民が滞在したタージマ ホテルは昨年11月のイスラム過激派のテロで、旧館は修理と厳重な警戒でした。

インド最大の富豪と言われ、ジャムシェードジー・タタがインドの入口であるムンバイに世界に通用する一流ホテルの必要性から、英国に対抗して建てた豪華な歴史と憧れのホテルでいつか宿泊したい思いに駆られました。



タージマ ホテル

2004年に世界遺産に登録されたビクトリア・ターミナス駅、現チャトラパティ・シヴァージー・ターミナス駅。この名前はこの地でムガル帝国に抵抗し最後までイギリスの植民地化に抵抗したヒンドゥー教徒の英雄です。インド中の鉄道スタート地点で巨大な駅を観光後、ムンバイ空港から1時間のフライトでアウランガバードへ、今夜の宿アンバサダ・アジャンタは五つ星ホテルで、ゲートから入口まで広い前庭があり、裏庭にはプールやテニスコートも有ります。ホテルのレストランは高価なので夕食は外のレストランに行きました。ホテル前道路の横断、歩道には街灯も信号も無く、暗闇から車が猛スピードで走行



し、まぶしいライトに慣れるまで足がすくみました。

翌日は「エローラ窟院」の観光に日本語通訳付き車がホテルに迎えに来ました。

初めての印度旅行のため加賀谷氏が手配してくれた贅沢な旅は今回限りで、二度目の印度旅行からはネットでホテルを取り安価な旅を心掛けました。

アウランガバードから車で一時間、途中、祐民日記にスケッチされているドウラタバートの古城を見学、頂上から見る城の全景、デカン平原の景色が雄大でした。



ドウラタバート古城からデカン高原の街並み

12世紀に造られた砦で歴代のイスラム王朝が支配しました。そこから30分のエローラ窟院は南北6キロに及ぶ大地にせり出した岩山を、掘削して作られた34の寺院群です。

1～12窟は仏教（7～8世紀）、13～29窟はヒンズー教（8～9世紀）、30～34窟はジャイナ教（9～11世紀）、最も有名なのは第16窟にあるカイラーサナート寺院です。



エローラ 16窟 カイラーサナート寺院

岩山を上から彫って百年後に完成しました。たくさんの象が本堂（宇宙）を支えています。一番奥の本殿のドームは聖地カイラーサ山で、中にシヴァ神（リング）が祀られています。

第5窟は僧院で幅18メートル。奥行き36メートルもあり、エローラで最大の空間を持つ講堂として使用されました。第12窟はまるで学校かアパートのように見える、多くの僧侶が寝食をした僧房です。次にアウランガバード

の北部、ファルダプール村から公営バスに乗り換え約15分の「アジャンタ窟」に行きました。紀元前2世紀から紀元後650年の800年間に30窟の仏教洞窟が作られ、7世紀ごろには突然理由も無く、建築者がエローラへ移動しました。

1819年東インド会社のジョーン・スミスが虎狩をしていた時偶然発見されました。第26窟祠堂、聴松閣トンネルの入口はこちらのコピーです。第2窟は釈迦誕生の壁画、天上の菩薩が白象となって地上のマーヤ夫人のお腹の中に入る夢をみた壁画です。第16窟の化粧をする女性は薄暗い部屋の柱に描かれていました。フラッシュ禁止の暗闇で撮った写真は手に持つ鏡だけが光っています。何れも聴松閣地階のハリハラン壁画のオリジナルを目にして感動しました。



アジャンタ 2窟 釈迦誕生の壁画



デカン高原の北西ワーグラール川溪谷の断崖中腹に刻まれた仏教寺院群アジャンタ石窟と筆者

名作の舞台を訪ねて(2)

支部員 村中 征也

支部報177号で「支部員の2氏が私家版を出版」として紹介頂き、178号から「名作の舞台を訪ねて(1)」と題して抜粋掲載を始めました。これは、文学・音楽などの分野から50の名作を選び、その舞台を紀行・スケッチする旅で、6年を要しました。

今回は、北海道「知床旅情」でしたので、今回は山形市「立石寺」です。

No. 8 俳句・松尾芭蕉

閑さや 岩にしみ入 蟬の声

『奥の細道』の名句です。山形市にある立石寺(通称山寺)での作で、「見ておいた方がよい」と勧められ、尾花沢から戻る形で訪れているので、勧めが無かったら生まれなかった句かも知れない。

月日は百代の過客にして、行き交う年もまた旅人なり…片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず…

弟子の河合曾良を伴い、江戸～平泉～酒田～大垣までの2,400km、1689年5月16日～10月4日(新暦)の142日間に及ぶ。作中の次の3句も有名です。

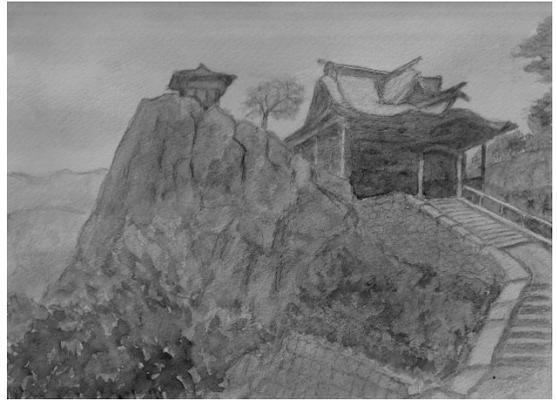
夏草や 兵どもが 夢の跡 平泉
五月雨を 集めて早し 最上川 山形
荒海や 佐渡に横たふ 天の河 出雲崎

芭蕉は、現在の三重県伊賀市に生まれ、江戸に出て深川の芭蕉庵に住み、蕉風の俳諧を確立し、「俳聖」と称される存在。

【現地を訪ねて】

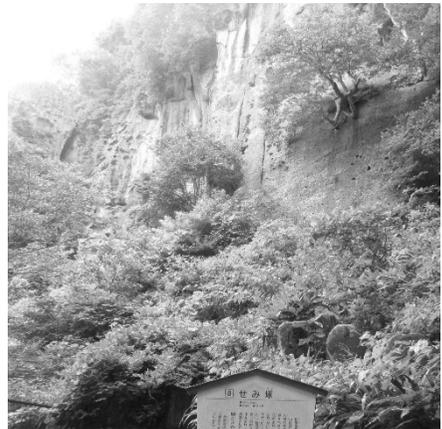


芭蕉像前で



立石寺の絶壁に建つ五大堂と開山堂を描く

この句が詠まれた立石寺は、JR山形駅から仙山線で東に13kmの所。860年(平安前期)開山の天台宗の古刹で、円仁開山の4寺(中尊寺・毛越寺・瑞巖寺・当寺)の1つ。



せみ塚の岩壁

山寺の名の通り、山の斜面の広大な敷地に多くの堂宇が建ち、奥之院までの石段は1,015段。

2023年8月1日、右膝への人工関節手術後で心配したが、片側に手摺があると聞き決心、ストックと併用で完登出来た。

猛暑は木立の中で救われた。岩や石像、門・建物を眺めながらの登り、中程の「せみ塚」の前での一服、40mの岸壁に響く蟬の声に聞き入った。

…立石寺は、訪れておきたい名所です。



東海支部の蔵書からの一冊 40

図書委員長 石田 文男

『足利からの山旅』（六）（七）

沖 允人・道子著

前号39に紹介した『奥美濃の山旅』、『奥三河の山旅』の著者の大著と言える『足利からの山旅』を取り上げた。

「・・・急遽、職場を栃木県足利市に移ることになり、これから十年以上を足利で過ごすことに・・・。この機会に名古屋での生活をいろいろと支えていただいた皆さまへのお礼の気持ちも加えて、この本を妻との共著として自費出版することにした。

名古屋を去るにあたって、惜別の情は抑えがたい。しかし、《人間至るところに青山あり》との言葉を信じて新しい土地に向かうことにすると、『奥三河の山旅』のあとがきに結ばれている。

ここに、『足利からの山旅』の基盤がある。

前紹介39に「・・・のち、二十数年にわたり足利を本拠地に、栃木・群馬・埼玉・福島（会津・阿武隈の山）など東北へ、北海道・日本アルプス・新潟・石川などの山へと広がっていく。これらが『足利からの山旅』として、7巻まで纏められたのも凄い」と、末文に書いた。今、この七巻の国内外の広範囲・多岐にわたる山と紀行を俯瞰してみて、改めて大著だと感じている。

「名古屋から足利市に移り住んでの7年間の山旅の印象を纏められたのが始まりで、一冊の本を纏めることは大変であったが、これまで登った山々や出会った人々との忘れがたい思い出を反芻するのにいい機会であった」との、一卷の〈はじめに〉の一文のように、ここから11年に及び七巻まで出版されたのだ。

さらに、一卷〈あとがき〉では「足利を起点とした登山の記録を整理して、自分ながらよくぞ歩いたものだと感心した。・・・どの山にもそれぞれの思い出があり選択に困ったが、人や風景との出会いの中で、私の心に残った登山の記録の幾つかを選んだ。足利での山行が楽しいものになったのは、素晴らしい山の仲間にも恵まれたからで、足利に来て間も



ないころ近くの医院の山に登るという女医さんと、その仲間とも知り合いになれたからであった。・・・足利に住む人々や周辺の山々を知るようになり、この出会いは私たちにとっては大切な財産となった」と述べている。

次いで、全巻について見てみると〈一卷210頁76山〉、〈二巻280頁191山〉、〈三巻275頁121山〉、〈四巻581頁208山〉、〈五巻481頁156山〉、〈六巻「海外の山編」406頁〈東部カラコルム：サセル・カンリⅡ峰初登頂・他3山初登頂〉含む22山〉、〈七巻・最終版545頁（付17頁含む）153山〉。とあり、山・頁の分量が歴然である。

最終版七巻の巻末にある〈六巻までの掲載の山〉が17頁わたってあげられており、七巻掲載分を足すと山は927で、紀行・随筆が加わってこの分量だ。これだけの記録を明確にとり文筆化するのにはいかなるパワーか。しかも15年ほどで。

※

読み始めるとあれもこれもといとまがない。が、中でも読み応えと感銘を大いに受けたこの一つだけはあげておきたい。それが、最終版の【深田久弥ご夫妻とわが家のこと】である。〈松原の深田先生のお宅〉から始まり23ページ余にわたっていて、そのどれにもほの

ぼのとした関わりが伝わってくる読後感だ。
長くなるが一連の項目を拾っておきたい。
〈深田先生とヒマラヤ：ジュガールヒマール
周辺と『日本百名山』のこと〉。

〈丸山山房：マラヤ関連の書籍の宝庫で、本
の入手と多くの人との関わり〉。

〈ヒマラヤの本：『ヒマラヤ登攀史第二班』、
『ヒマラヤの高峰』、『ヒマラヤ・山と人』
などヒマラヤに関する出版物〉。

〈私のヒマラヤ：深田先生に遠征のための知
識と知恵を借りた話など〉。

〈暖かった奥様の気持ち：道子は・・・不満
がたまると奥様に手紙を書いていたようだ。
その都度奥様から手紙をいただき、それらは、
大変心温まるものであったという〉。

〈奥様と深田先生からの手紙：かなりの数の
手紙のやりとりがあったようだが、残ってい
るのは・・・。深田先生から允人宛の手紙・
葉書は沢山あったが、残念ながらほとんど残
っていない。奥様から妻・道子宛の手紙など
が17件、この中の一通には、奥様から・・・
「これからが御家庭として一番充実した時を
お迎えになるのだと存じます。自分が夢中で
主人や子供の世話に明け暮れた時代を懐かし
く振り返る思いでございます」と。

深田先生が奥様と新婚旅行のように登られ
た雨飾山の双耳峰に触れて書かれたものに、

左の耳は

僕の耳

右は はしけしや

君の耳

がある。ちなみに、「はしけしや」とは「愛
おしい」の意味。奥様は「私の小谷温泉」と
して山の文学誌『アルプ』1972年10月号に
この当時の思い出を書かれている〉。

〈深田先生がご存命であったなら：深田先生
に期待していたのは、なんといっても「世界
百名山」の完結である。『世界百名山絶筆四
十一座』周辺あれこれ。

「深田先生のモットーは〔未知を求めて遠
く旅する者に神はそのパラダイスを開く〕で
あった。母校の錦城小学校の校歌を深田先生
が作詞されている・・・。この小学校の近く
の江沼神社の境内に深田先生の碑がある。当
初、この碑に「未知を求めて・・・を刻む予
定であったが・・・次の四行詩になったと奥

様が『アルプ』に書いておられる。

山の茜を顧みて

一つの山を終わりけり

何のとりこのわが心

早も急かる次の山

私は、やはり、深田先生の生き様としての
「未知を求めて遠く旅する者に神はそのパラ
ダイスを開く」が好きである〉。

※

七巻のうち支部所蔵は六と七で、分類は禁
帯ある。この二巻は勿論だが、何処かに機械
有らば他の五巻一から五も読んでほしいもの
である。

(六) A5版406頁 私家版(200部) 非売品
発行2006年3月31日

(七) A5版545頁 私家版(150部) 非売品
発行2009年10月12日

参考

(一) A5版210頁 私家版() 部 非売品
発行1998年7月16日

(二) A5版210頁 私家版(200部) 非売品
発行2001年1月3日

(三) A5版276頁 私家版(200部) 非売品
発行2001年1月3日

(四) A5版581頁 私家版() 部 非売品
発行2 年 月 日

(五) A5版481頁 私家版() 部 非売品
発行2 年 月 日

石田所蔵 (一) 特装20-⑱、(二)、普及
・特装10-⑥、(三) 普及(六)

第10回スケッチクラブ作品展のご案内

山の絵のほか、多彩な作品に取り組みまし
た。ぜひご覧ください。

期間：10月2日(水)～6日(日)

時間：9：30～16：30*2日は13：00から
*6日は15：00まで

会場：名古屋市市政資料館 3階第5展示室
名古屋市東区白壁1-3 TEL052-953-0051

交通：地下鉄名城線「名古屋城」駅2番出口
を東へ8分(公共交通のご利用を)

連絡先：村中征也 090-2922-8868

登山用品における環境保護の意識について

装備委員会委員長 千葉 泰文

今の世を生きている私たちにとって、環境破壊を食い止めなければならないという考えは大事なことと思います。ましてや自然、山を愛している私達登山者にとっては特に意識を強く持たなければならないことと感じます。山を始めとした自然環境の破壊が始まっていると感じるのは私だけというわけではないです。山に行った時などにそれを目にすることが有ります。

パタゴニアというブランドは、多くの人の環境意識が高まる以前から環境に配慮した物作りをしていました。初めてフリースウェアを商品化したのはパタゴニアが初めてですが、製品をリサイクルしたポリエステル素材で作ったり、2005年にはフリースを回収して再度フリースに生まれ変わらせることなどを行っています。その他にも環境に配慮した商品作りの考えを徹底しているようで、それがブランドイメージの向上につながっています。同じような商品が他社に比べて少し値段が高いようですが、商品が丈夫で長く愛することによって環境負荷を低くするという考え方もあるようです。

今まで、登山道具はその性能を高めることで個人のパフォーマンスを増大させてきました。より困難な登山の成功には高性能な登山道具の進化が不可欠だったともいえるかもしれません。しかし性能の高度化が環境破壊につながってしまったという事が有るかもしれません。

1976年に初めて発売されたゴアテックスは完全防水で蒸れないという性能で今や雨具の素材としては一般化した素材ともいえるものです。初めて登山用品を買う人には、雨具はゴアテックスでなくてはいけないというほどです。

ゴアテックスのメンブレンの素材であるPTEF(ポリテトラオロエチレン)はPFAS(有機フッ素化合物の総称)の一部とされ、環境に蓄積されていき、水を通して人体に蓄積されると健康被害に及ぶとされるようになりました。又メンブレンだけではなくて表面の撥水加工もPFASなので、撥水加工もフッ素化合物を使わないという方向に有るようです。最近の撥水加



防水・透湿のゴアテックスの撥水の瞬間

工はとても耐久性が高くなっていますので雨具に対する性能の信頼性も良くなっていますがフッ素を使わない工夫が求められてきています。

そのゴアテックスですがメンブレンの素材を新しくPTFEではなくてePE(エクспанデッドポリエチレン)という素材に代わっていくようです。同じゴアテックスという名前を使ってもその中身は違う素材に変化していきます。防水性や透湿性と言ったゴアテックスそのものが持っていた素晴らしい性能は維持されているようです。今のところ、そのお値段はちょっと高めでは有るようですが、環境と健康維持のためには新しいゴアテックスに代わっていく、又は撥水加工を含めて環境に蓄積されない素材を採用していくことはとは必ず必要なことと考えられます。

委員会報告

【ボランティア委員会】

二つのボランティア登山

試験観察中の少年との「タンポポ登山」・ブラインド登山者との「ひまわり登山」

6月14日（金）、名古屋家庭裁判所の試験観察中少年との登山「タンポポ登山・身柄付き補導委託登山」が行われた。名古屋家庭裁判所調査官、名古屋少年友の会、試験観察中の少年親子、ボランティア委員会の総勢11名が参加して、すでにこの行事では定番となっている。林道ゲートから赤猿峠、猿投山、三又広場の周回コースで登った。少年たちの、山での明るく楽しそうな振る舞いから、何故、彼らが問題を起しているのか？いつも考えさせられる。

1週間後の、6月22日（土）、東海支部・支部友所属のブラインド登山者との登山「夏のひまわり登山」が行われた。19名（内、ブラインド登山者5名）が参加して、猿投山（629m）の北東に、戸越峠を挟んで同じ高さで連なる折平山（628m）に登った。金山に8時集合、乗用車3台に分乗して一般道を走って八柱神社駐車場へ、駐車場からの周回コースで実施。猿投山の隣にありながら、今回も登山者と出会うことの無い静かな登山が楽しめた。登山道も危険



夏のひまわり登山 折平山にて

なところはほとんど無く、自然も多く残されており、もっと登られてもいい山だと思う。

今秋も、一般公募の「秋のブラインド登山」、東海支部・支部友所属のブラインド登山者との「秋のひまわり登山」、SON 愛知のアスリート（知的障がい者）との「秋の山岳会と一緒に登山」、試験観察中少年との「秋のタンポポ登山」に加えて、自由ヶ丘幼稚園児との「親とこのふれあい登山教室」を実施します。詳細は、今号、INFORMATION コーナーに掲載されています、ご覧ください。

【猿投の森づくりの会】

「上高地国有林の歴史と保全に関する現地研修会」

猛烈な台風10号が到来するとの予測の中、上高地への影響は限定的と判断し上高地山岳研究所へ林野庁中信森林管理署井口署長をお招きして講演、現場案内をして頂いた。標記の研修会である。この企画は、猿投の森づくりの会の20周年記念事業の一環でもある。参加者18名、2024年8月31日のことである。

上高地の森林伐採は江戸時代初期から始まり大正5年（1916年）には木材生産としての伐採は終了している。バスセンター周辺のカラマツ林は大正3年（1914年）に植栽し樹齢110年になる。

植林と言えばスギ、ヒノキ、マツを指すと思っていたが長野県のような高地ではカラマツを植栽することが多く現時点ではスギよりカラマツの方が高価で取引されるとの事、再認識させられた。



研修に参加した方々 上高地山岳研究所にて

上高地の森林は現在保護林となっている。カラマツの人工林が2%、シラビソやコメツガなどの針葉樹天然林が70%、ヤナギ類、ハルニレ、サワグルミ、ダケカンバなどの広葉樹が11%、その他17%である。

上高地の保護林の管理上の課題は

1) オーバーユース（マイカー、観光バス規制）

- 2) サル (現在4群・205頭)、熊 (研修会当日も遊歩道で目撃情報あり)、鹿の獣害対策
 3) 梓川の河床上昇し河原が陸地化している (ケショウヤナギが生育しない)。流路整備と相反する、等である。
 講演後ウエストンレリーフ、ヘリポート横の

治山事業工事現場、下水処理場などを見学した。
 翌9月1日天候が回復した梓川右岸を明神池まで散策した。なお本道である左岸登山道は現在土砂崩れの為当分通行できない状態が続く。
 尚、支部報に連載中の「上高地―楽しい歴史話」を参照してもらおうとよい。

第19回東海岳人写真展 [山とつながる よろこび]

作品募集のご案内

標記写真展を下記の要領で開催します。この作品展は隔年開催しておりますが、支部員、支部友やOBの作品ということで大変好評をいただいております、前回18回は1千人余の方が会場を訪れ鑑賞されています。山の魅力を写真を通して表現し伝えていきます。

日頃の山歩きや支部員、支部友としての登山で出会った感動的あるいは山の魅力を伝えたい風景の作品をお待ちしています。ふるってご応募ください。支部員、支部友会員以外でも、猿投の森づくり会員、東海 youth、東海学生連盟、支部OBの方も応募できます。

- 1、開催期日 2025年(令和7年)2月25日(火)～3月2日(日)
- 2、会場 名古屋市中区 市民ギャラリー栄 7階 第1・2展示室
- 3、作品展示規模 写真B2・B3 パネル50～80点程度を予定
- 4、応募要領
 - (1) パネルと写真の大きさ (今回は①、②のどちらかを選択してください)
 - ① 写真A2サイズ パネルB2サイズ
 - ② 写真A3サイズ パネルB3サイズ
 - (2) 作品に関する説明は、100字程度までで、題名、山名や撮影年月に加え撮影時の印象、感動、山の魅力等について記載してください。そのままキャプション(題名板)に転記します。
 - (3) 応募点数は、原則一人2点までとします。応募申込書及び応募要領は別途10月支部報に同封します。
- 5、出展費用 プリント・パネル製作代込み 1点 A2版9,000円、A3版6,000円
- 6、募集期間 令和6年10月1日(火)～11月30日(土)
- 7、問い合わせ他 展示会や応募に関する問い合わせは、下記の写真展実行委員までお願いします。
 <写真展実行委員>
 実行委員長 岩月 邦文 090-5451-6855 副委員長 蟹井れい子 090-5559-1291
 副委員長 蜂矢 昭子 090-5453-8070



写真展実行委員会 今後の予告(案内)

- 1、写真教室の開催 11月7日(木)18時～20時 支部ルーム
 山岳風景写真家 大島隆義氏を講師に、山岳写真撮影及び皆さんの出展予定写真へのアドバイスをいただきます。
 - 2、写真山行の開催 11月23日(土) 場所 海津町 臥龍山 行基寺
 養老線山崎駅から行基寺まで歩いて往復します。行基寺参道登り坂に続く紅葉を撮影します。また、行基寺の庭園と濃尾平野が一体化した風景は圧巻です。
 多くの方の参加をお待ちします。
- * 上記1, 2の詳細については別途10月支部報と共に案内資料をお送りします。

日本山岳会東海支部写真展実行委員会

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和7年1月～3月分)

- 1月12日(日) ☆
 山域：愛岐丘陵 山名：鳩吹山
 統括リーダー：尾上 昇 リーダー：田中 進
 申込みはリーダー田中
- 1月13日(月祝) ☆☆☆
 山域：焼津アルプス 山名：満観峰
 リーダー：今津 英一朗
- 1月19日(日) ☆
 山域：袋井・掛川市 山名：小笠山
 リーダー：近藤 政仁
- 1月25日(土) ☆☆☆
 山域：奥三河 山名：鞍掛山
 リーダー：倉橋 智司
- 1月27日(土) ☆☆☆
 山域：鈴鹿 山名：御在所岳
 リーダー：高松 信治

- 2月1・2日(土日) ☆☆☆
 山域：長野 山名：乗鞍高原・上高地
 リーダー：金谷 正起
- 2月1日(土) ☆☆☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：青岳
 リーダー：田中 進
- 2月8日(土) ☆☆☆
 山域：北陸 山名：医王山
 リーダー：林 康太郎
- 2月9日(日) ☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：入道ヶ岳
 リーダー：今津 英一朗
- 2月15日(土) ☆☆☆
 山域：恵那 山名：富士見台
 リーダー：久野 輝美
- 2月16日(日) ☆☆☆
 山域：豊橋 山名：神石山
 リーダー：近藤 政仁

- 3月2日(土) ☆
 山域：三河西部 山名：猿投山
 リーダー：久野 輝美
- 3月19日(水) ☆
 山域：度合山地 山名：姫越山
 リーダー：川崎 禎明

- 3月22日(土) ☆☆☆
 山域：中津川 山名：蛇峠山
 リーダー：倉橋 智司
- 3月29日(土) ☆☆☆
 山域：本巣市 山名：岩岳
 リーダー：池戸 美恵
- 3月30日(日) ☆☆☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：藤原岳
 リーダー：近藤 政仁

<申込み開始>

支部友会員は山行日の3か月前から、優先は1ヶ月です。支部会員は山行日の2か月前から、山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを受け付けます。月に2山行まで。

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

- 「予告」第66回 10月26・27日(土日)
 テーマ：「朝明ミーティング」
 朝明茶屋キャンプ場
 1日目：分散登山後 BBQ キャンプファイヤー
 2日目：午前 座学 ファーストエイド講習
 午後 ロープワーク・ツェルトの張り方
- 「予定」第67回 12月10日(火)
 テーマ：「忘年会・新入会員歓迎会」
 レストランリビエール(セントヒサヤビル11F)

支部友会員数(令和6年8月末現在)／68名

リーダー連絡先

尾上 昇	onoe@onoe.co.jp
金谷 正起	kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
榊 将美	m.sakaki@minds-consulting.jp
田中 進	t-susumu@peace.ocn.ne.jp
磯部 隆	takass@yk.commufa.jp
高松 信治	takama2nobu3@yk.co
今津 英一朗	imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp
村瀬 恭平	hoshizakari@docomo.ne.jp
近藤 政仁	vft55ud55@gmail.com
倉橋 智司	ilyt6by8@qc.commufa.jp
池戸 美恵	noboruonna@icloud.com
川崎 禎明	y.kawa715@gmail.com
久野 輝美	kuno4895@hotmail.com
林 康太郎	koutaropippi@gmail.com

会 務 報 告

【2024年6月常務委員会】

日時：6月26日(水)19:00～20:40

1. 支部長挨拶（高橋）

・6/8、6/9で夏山フェスタが終わった。反省点としてお客さんの求めている情報を提供し受け入れていく。例えばアルパイン、登山学校、支部友など目的に添うことが必要。

・アルパインクラブが中心で韓国山岳会の交流会に行った。親交を深め手厚いもてなしを受けた。

・8月例会は懇親会の予定、常務委員会メンバーの交流の機会にしたい。

2. 総務委員会（今津）

・退会二人

・デジタルメディア委員会を井上さんから大槻さんと鈴木絵美子さんに引き継ぐ。

・予算管理方法の確認。各委員会議事録の中に会計報告を入れる。

・韓国に行ったメンバーがマグカップを手土産として進呈した。18個×2,000円を韓国隊に販売したので入金予定。(完売)

・群馬支部10周年記念行事参加者なし。

・ガイドブック令和6年度体制、ルーム利用スケジュールなど掲載。7月支部報にQRコード通知予定。

3. 東海Web（大槻）

・作成途中のホームページを大槻さんの説明を聞きながら見る。会員向けのコーナーには会員No.とパスワードを使用して入る。会員以外のコーナーには会員No.パスワードがなくても入れる。今メルマガで発信している情報は【お知らせ】のコーナーに掲載できる。山行計画書は今まで通りホームページを使って提出する(会員専用)。多くの質問が出たが大槻さんが回答した。8.9月ごろから既存のホームページと並行して運用、整備してR7年くらいから新しいホームページに移行する。他の山岳会にない活動を入れていく。

・大槻さんからのお願い。フォーマットを作るので素材の提供(活動写真、活動記録、顔が大きく写ったものはさける)投稿してほしい。サーバーにあげたらズレなどを教えて欲しい。

4. 愛知県山岳連盟（星・鈴木絵美子）

・6/18連絡会開催。

・JMSCA(公益社団法人日本山岳・スポー

ツクライミング協会)大幅な赤字のため出資のお願いがきている。

5. 支部友委員会（金谷）

・6/8、6/9夏山フェスタ開催。ブースに来られる方が少なくなっている。山岳会に対する関心が低くなっている。新入会勧誘オリエンテーションに17名参加。入会は半分くらい。参加者が高齢化している。

6. 山行委員会（稲葉）

・萩原侑紀さん(未成年、中学生)の山行について。赤岳の山行はお断りして日帰りの易しい山から参加してステップアップするよう要請した。保護者の承諾書の内容は、弁護士に相談して正副委員長で検討する。

7. 猿投の森づくりの会（和田）

・わいがや講座5/25東京大学生態水文学研究所の赤津研究林見学会。歴史のある施設。

・研修会、JAC研究施設利用、「上高地国有林の歴史と保全」8月末24名参加予定。

・20周年記念誌発行、B6判100ページ程度。10月発行予定。

8. トレッキングクラブ（服田）

・6/29(土)田原アルプス 登山学校受講生1名体験参加

9. アルパインクラブ（高橋）

・会員数35名年々増えている。バリエーションにニーズがある。

・指導者が少ないので、皆さん手伝っていただきたい。

・山田利行さんカナダで活躍している。

10. 東海学生山岳連盟（山下）

・6/19総会、南山大学、名古屋大学、名古屋工業大学、三重大学、愛知学院大学計22名、三重大学が再び学連に参加。

・ゴザフェス、準備。

11. 登山学校（服田）

・6月卒業山行実施。第8期Aクラス18名(夏山フェスタからの入会、男性二人女性二人)(HPからの参加4人)Bクラス6名

・7/6第7期修了式、第8期開校式。

・机上講習『地図ソフトとスマホアプリ活用法』講師、鈴木慎吾氏。

12. 自然保護委員会（欠席）資料のみ

13. ボランティア委員会（前田）

・瀬戸少年院飯ごうすいさん。少年院の中で飯

ごうすいさんをして少年と語らう。少年院からお礼 6,500 円が支部の口座に入金された。タンポポ登山は家庭裁判所から正式に委託された行事だが、瀬戸少年院の飯ごうすいさん行事は委員会行事ではなく個人的に対応する。

14. 遭難対策委員会（高松）

・リスクチェック表の見直しについて。年齢の項目を入れる。高齢化によるバランスの低下、下山後の運転などもチェックの対象にして遭難対策委員会で検討してもらえないかと意見があった。以前から見直そうとしていたので参考にすると高松委員長が答える。

15. 写真展実行委員会（岩月）

・2025/2/25?3/2 市民ギャラリー写真展開催予定。7月9日の支部報に出展希望者の募集。
・写真勉強会、11/7(木)19時。今回は委員会メンバー以外2?3名参加した。勉強会は講師謝金が必要のため委員会メンバー以外が参加しやすいよう土日に開催、通信添削など検討して欲しいとの意見があった。

・会員を増やすため、(現在11名)【写真展実行委員会】という名前を【山岳写真委員会】などに変更してはどうかと意見があった。

・写真展に支部の紹介コーナーのスペースを作る。

16. 技術向上委員会（清水）

・『リスク軽減につながる登山計画の立て方、読み込み方』11/24?講習会。HP、支部報で周知する。どういう山を選ぶか、自分に合った山かなど

・支部のHPに『安全登山』にマダニについて掲載する。

出席：高橋、今津、服田、前田、星、高松、岩月、鈴木、山下、大槻、奥山

zoom：金谷、稲葉、和田、清水

【2024年7月常務委員会】

日時：7月24日(水) PM7:00 支部ルーム

1. 支部長挨拶（高橋）

今津さんに対し、療養中にもかかわらず支部運営にご尽力いただき感謝の念に堪えません。復帰されましたらまたよろしく願います。

異常な暑さが続いていますので山に行かれるときは熱中症等の対策をしっかりとって安全登山に努めてください。岳沢のテン場に熊が出没との情報があり、テン泊禁止となっている。動物の行動も異常な事態となっているので合わせてに注意をお願いします。

来月の委員会は懇親会も兼ねているので、多

数の参加を願います。

2. 総務委員会報告・相談事項（代・服田）

*支部員7月度入退会 入会2名 退会4名

*総務費出金願い 予算40,000円 適応8月 ZOOM、BOX 支払い

*デジタルメディア委員会引継ぎ：7/26引継ぎ会議 大槻・鈴木(絵)

*匿名(本人希望)にて1,000,000円 東海支部運営費としてご寄付頂いた。

*本部財務担当よりR2年度の未清算金の指摘がなされた。

支部長より説明：本部より支給された912,000円のうち412,000円の未清算金があること判明。当時の会計と現会計よりヒアリングを行い現状把握の上、本部と処理方法を協議する。その後の結果は常務委員会にて報告を行う。
*スクリーンの破損は支部友田中進さんが応急修理をしてくださったので使用可能です。

*継続案件については資料通り

*その他

・未成年者の支部山行承諾書は継続して正副預かり。リーガルチェックについて相談中。該当者からの参加申し込みについては正副に相談の事。

・「個人アドレスでの支部員メールアドレス収集」の件はいったん様子見とする。

・支部事業委員：服田 7/22 本部 ZOOM 会議に参加(年2回の指導者研修会、全国支部懇談会取りまとめ等の担当)

*連絡事項 次回8月度常務委員会は懇親会を兼ねてシルクロードにて開催、評議員にも声掛けを行う。8月28日 19:00~ 於：シルクロード、出決は8月9日までに前田さんまでお知らせください。

*入退会について(支部長)

退会の申し出があった場合、出来れば継続していただけるよう慰留の一言をお願いします。(支部員減少傾向にあるので)

*夏山フェスタからの協力金として中部経済社より10万円の支払いを受けたとの報告あり。昨年度に比して収支決算が良かった由。担当関係者、学生の協力に感謝するとともに次回もよろしく願いいたします。

3. 県学連（星・鈴木(絵)）

*JMCSA基金への出資のお願いに対する説明の資料を作成中。本日の資料は目を通していただき情報の共有をお願いします。来月には正式な説明資料を提出予定。

*安全登山サテライトセミナーplus の開催について8/10 申し込みは7/12~7/26

*スポーツ庁より「夏山登山の事故防止について」の文書が届いています。目を通しておいてください。

4. 支部友委員会（金谷）

*山行については問題なく進んでいます。

*8 月支部友ミーティング 新しく入った人を中心に「地図読みの基本」講師：高松

*活動費（7 月支部友報作成費）16,552 円の支払い申請

5. 山行委員会（稲葉）

*山行については問題なく粛々と実施されています。

*夏山山行の立案を各委員会のリーダーにお願いします。

*ワンポイント訓練（毎月実施）今回はツェルトを使用しての担架搬送を実施

6. 亀の会（鈴木）

*富士山登山山行：1 合目より山頂組 11 名内 8 名登頂・2 名 8 合目 お中道組 5 名、平均年齢 78 歳。ご心配をいただきましたが無事終了しました。

*会員数：51 名

*山行におけるマイクロバス使用について⇒サンアイレンタリース 運転者：オクト

*NET への個人情報 UP についての注意喚起

7. 猿投の森づくりの会（和田）

*R6 年度国土緑化推進機構助成金はほぼ申請通り助成枠が決定された。日頃の活動が評価されている成果の表れと考えている。

*8/31~9/1 山研を利用して研修を予定「上高地国有林の歴史と保全」

*20 周年記念誌発行予定 常務委員会メンバーの中で希望者は和田迄ご連絡ください。

*The North Face より東海自然歩道維持支援の取材予定 8/13 取材・作業参加

8. トレッキングクラブ（服田）

*粛々と活動は進めています。6 月の体験山行に参加された支部友の方が入会 会員数 16 名

*山行その他資料通り

9. 支部報（星）

*No. 179 Oct. 1. 2024 支部報 編集委員会にておよその内容を協議立案。内容については資料通り。30 ページ前後を予定していますので原稿の補足追加があればご連絡ください。原稿締め切り 8 月 31 日

追加提案 ・インドヒマラヤについてXビザ申

請の経緯等。

・猿投の森づくりの会の上高地研修。

・亀の会メンバーによる富士山登山是非掲載を。

◎支部報発送作業日は年間で決まっているため、原稿締め切りは必然的に決定される。締め切り日に間に合わない場合は、次号に回すことになる。

10. アルパインクラブ（高橋）

*会員数 39 名 会員は増えているが指導者不足の現状がある。指導者の育成が課題

*「ウエルダネス（WMA）で学んだこと」講師・草野 座学を開催 多数の参加があった。実際に顔を合わせての会合開催が有益と思われる。

*会員数も増えて来たので装備の（ザイル・テント等）充足を図りたいと考えています。予算執行にご理解をお願いします。

11. 東海学生連盟（山下）

*第 1 2 回 ゴザフェス開催 9/28~9/29

*懇親会（夕飯）等の準備について主催は学生。東海支部員はあくまでもお手伝いとして参加

*食材費等の費用について主として参加費で賄う。

・補助金として夏山フェスタで支払われた協力金の中から、山フェスタでの学生の協力に対してのお礼として協力金を支払う。金額については常務委員会にて決定承認を受ける。

・日程については、昨年度の行程を踏襲予定。昨年度は四日市警察の小古さんによる頂上でのセルフレスキュー等も好評だった。要望があればお願いすることも可能。（服田）

開催に関するポスター・チラシ等を作成してもらえれば他支部のユース等に参加案内をすることができるので是非仲間と共に協力して作成してください。（高橋）

12. 登山山行（服田）

*8 月山行より新年度開始となります。

8 月 9 月各クラス山行予定、机上講習は資料通り。

8 月 18 日（日）『装備 夏山編』講師：千葉泰丈氏

*遭難対策委員会・支部友委員会合同企画 オープン参加『登山の基礎知識』講師：服田康宏氏

13. 自然保護委員会（石原）

*支部友より 1 人参加加入

*作手湿地（愛知県三河高原）巡り 8 月 7 日 ガイドを依頼。ガイド費用 5,000 円 予算申請

*上山路川遡行(猿投山) 9月30日(月) 詳細は後日決定。支部内で参加募集を行い交流に役立てる。

・支部内交流については現在課題となっている。(高橋)

14. ボランティア委員会 (前田)

*資料通り

④秋の合宿 10/19-10/20 もりなり宿泊 1日
目稲刈り翌日近郊美濃の山登山

支部内視覚障がい者 5名とボランティア委員会との合同合宿

15. 写真展実行委員会 (欠席)

*資料のみ

16. 遭難対策委員会 (高松)

*支部登山届状況 資料通り

*事故の発生報告について

事故報告書を提出いただき今後の再発防止・啓蒙に役立てる趣旨で様式を準備、仕組化を考案中。

*秋に受ける消防署のレスキュー講座の内容も含めファーストレスキューとして三角巾の使い方等をまとめた小冊子を作成し周知を図る予定。

17. 技術向上委員会 (清水)

*「登山計画の立て方+読み取り方」講習について 11/24 15:30~17:30 講師:井上氏

・基本的な内容を押さえるが、資料は雪山、沢の計画等も含むのでアルパインクラブ、東海学生山岳連盟の方々にも参加をお勧めしたい。(登山学校カリキュラムとタイアップ)

・計画書の提出については遭難対策委員会からお話いただきたい。

・周知及び応募方法は HP に掲載 支部報掲載 各委員会での PR もお願いします。

*東海支部 HP への「安全登山教室」掲載について

・最近拡大しているクマ、マダニ、ヤマビルの最新情報を反映し「2024年最新情報追補版 危険な生物に注意! その1-獣の危害に備えるには」「同 その2-毒のある生物の回避策と『やられた』時の対策」を、支部 HP に掲載してもらう。

◎体験も含めて生の声でのフォローアップの講習会を是非開催して欲しい。-常務委員からの要望

資料については各委員会内の啓蒙に活用してください。(内容については三浦先生に目を通していただいているので問題ないと思いま

す。)

18. インドヒマラヤ (星)

* 9月15次隊 7名 予定日数 41日 円安のため費用が高くなっている。

インドの奥中国との国境付近。漸く許可が下りた。xビザ取得。

グレードの高い山となるため計画、準備を十分にいき全員が無事に登頂することを目指しています。

支援金 100,000円を贈呈する。

*予算申請について 以下全て承認

総務委員会:40,000円 8月 ZOOM・BOX 利用料

支部友委員会:16,552円 7月支部友報発行費

自然保護委員会:5,000円 8月7日作手湿地

巡り ガイド料

インドヒマラヤ隊:100,000円 支援金

議事進行:服田 出席:高橋、前田、服田、西山、山下、石原、和田、星、高松、鈴木(絵)、金谷、鈴木(慎)、稲葉、清水

ル ー ム 日 誌

--- 6月 ---

大会議室 /小会議

2(日) トレッキングクラブ

3(月) 支部友委員会

4(火) 県岳連 /TNCC

5(水) アルパインクラブ(青年部)

6(木) 写真展実行委員会

10(月) 登山学校運営委員会

11(火) 支部友ミーティング

12(水) 山行委員会

13(木) 自然保護委員会

17(月) 図書委員会・読図会

18(火) ボランティア委員会

19(水) 東学連 /技術向上委員会

20(木) 正副支部長会議 /総務委員

24(月) /支部友読図会

25(火) 遭難対策委員会

26(水) 常務委員会

27(木) 総務委員会(合同)

28(金) 亀の会

--- 7月 ---

1(月) 支部友委員会

2(火) 県岳連 /TNCC

3(水) アルパインクラブ(青年部)

4(木) 写真展実行委員会

6(土) 登山学校修了式・入校式

8(月) 登山学校運営委員会

- 10(水) 山行委員会
- 11(木) 自然保護委員会
- 13(土) 猿投の森づくり自然観察会
- 15(月) 図書委員会・読図会
- 16(火) ボランティア委員会
- 17(水) 東学連 /技術向上委員会
- 18(木) 正副支部長会議 /総務委員
- 22(月) 支部友読図会
- 24(水) 常務委員会
- 26(金) 亀の会

— . . — 8月 —

- 1 (木) 写真展実行委員会
- 5 (月) 支部友委員会
- 6 (火) 県岳連 /TNCC
- 7 (水) アルパインクラブ(青年部)
- 8 (木) 自然保護委員会
- 13(火) 支部友ミーティング

- 14(水) 山行委員会
- 18(日) 登山学校机上講習会
- 19(月) 図書委員会・読図会
- 20(火) ボランティア委員会
- 21(水) 東学連
- 22(木) 正副支部長会議 /総務委員
- 26(月) 支部友読図会
- 27(火) 遭難対策委員会
- 28(水) 常務委員会
- 29(木) 総務委員会 (合同)

会員異動

- 入会** : 山口公子(17290) 高橋 湧太(16954)
 河野克来(17293) 上野真紀雄(17315)
 三ツ井研太(17314) 萩原大輔(17321)
 久米 瞳(17311) 黒石真弓(17306)
- 退会** : 石垣勝敏(12933) 福井雅子(15006)
 村井秀範(7785) 亀田広明(12867)

I N F O R M A T I O N

【ボランティア委員会からのお知らせ】

当委員会では、今秋、下記の公式行事を実施いたします。

- 秋の「SON・山岳会と一緒に登山」=SON アスリートとの登山
 10月12日(土)・雨天予備日11月2日(土)、鳩吹山
- 秋の「ブラインド登山」=ブラインド登山者との登山
 11月3日(日)、鹿島山、大鈴山
- 秋の「タンポポ登山」=試験観察中の少年との登山
 11月1日(金)・雨天予備日11月15日(金)、猿投山
- 「親とこのふれあい登山教室」=鈴鹿・尾高山
 11月9日(土)、鈴鹿・尾高山
 連絡先 maedaiq@gmail.com 前田まで 10月15日までに

【ゴザフェス2024のお知らせ】

東海学生山岳連盟では、今年もゴザフェスを開催いたします。ゴザフェスは山が好きな学生の交流を目的として、藤内小屋をベースに御在所岳のフィールドで行う、東海学生山岳連盟の最大のイベントです。

- 1日目はクライミングの体験会と懇親
- 2日目は、それぞれのコースから御在所山

に登り、山頂で集まり記念撮影をします。

クライミングをやらない方は、藤内小屋から一般登山道を歩きます。支部員の皆様にもご参加いただければ幸いです。

日にち：2024年9月28日(土)～29日(日)
 行程：【1日目】9:00 御在所裏道登山口集合
 10:00 開会式 10:30 クライミング講習会
 15:30 藤内小屋にて懇親会準備 17:00 開始
 *17:00 までに藤内小屋へ。

【2日目】4:30 クライミング組 出発
 8:00 一般登山組 出発 *裏道コースなど
 12:00 山頂集合・記念撮影 *小古真也さんによるセルフレスキュー講座を開催
 13:30 藤内小屋 発 15:00 御在所裏道登山道にて解散

宿泊：テント泊もしくは小屋泊(藤内小屋)
 費用：3000円(懇親会費) *藤内小屋での宿泊の場合は別途負担

〆切：9月17日(火) 申込先は
<https://forms.gle/opfaAbYUE1nzyRjL9>
 問い合わせ先：東海支部総務委員長 今津
 imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

編集後記

猛暑の夏から秋の移ろいが、今年は感じられるだろうか。今号も海外登山、亀の会、写真展、ボランティア等、会員諸氏の随想など、豊富な記事が揃った。感謝！ 星 一男

SINCE 1975
mont-bell

地球と遊ぶ、時間をつくろう



登山用品は、お近くの「モンベルストア」へ!

名古屋栄店 052-228-1840

豊橋店 0532-21-8650

長久手店 0561-64-2605

ららぽーと名古屋みなとアクルス店 052-659-2708

最新情報は
こちらから



株式会社 **モンベル** www.montbell.jp

法務相談は行政書士にお任せください!

相続

会計

許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com

久屋大通駅
徒歩1分

「東海支部報」では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有)富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457



印刷全般

ご相談ください

(有) **アジマプリント**

〒462-0015名古屋市中区中味鏡二丁目438番地

TEL(052) 901-1256

FAX(052) 901-2278

E-mail: ajimaprint@giga.ocn.ne.jp